



最後のまちの総合情報誌

Fujisawa Japan

*Stylish & Smiling. Anytime, Anything
By Your Side, With Your Life
www.town.fujisawa.iwate.jp*

9

September
2011 No.692
最終号

FUJISAWA TOWN PUBLIC RELATIONS MAGAZINE

古里の魅力を、価値を、エネルギーを発信した岩手県藤沢町の応援マガジン

総力特集★人の心に寄り添い続けたまちづくり

藤沢エタニティー

ずっと、もっと、きっと。

COVER★藤沢野焼祭

Front Page

千葉タカネさん

巻頭特集 緋文の炎・藤沢野焼祭

白熱する赤炎
祭りの本能

第3特集 東日本大震災から6カ月

心に届け、復興の応援歌

第4特集 夏の成人式

古里の夏にきらめく新成人

第5特集 黄海スパーキッズが標準V

町立最後の夏、岩手で「銀」

Focus

村上いろはさん

一関一高附属中1年

わたしの夢

菅原裕次郎さん

新沼小6年



Proud!

東日本大震災の復興を支援しよう

Japan

本誌「まちの総合情報誌 Fujisawa」は、岩手県藤沢町の広報誌。藤沢のまちを、人を発信してきたまちの応援マガジンです。1955年の誕生から56年、数々の魅力や価値を生み出してきた三つ星の町藤沢町は、2011年9月25日に閉町します。最終号は、この誇り高き私たちの藤沢が、合併後も日本一輝く古里であることを願って「FJ」(Fujisawa Japan)としました。



Stylish & Smilish, Anytime, Anything
By Your Side, With Your Life
www.town.fujisawa.iwate.jp

Last Contents



<p>40</p> <p>ホットコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月のおすすめ図書 ・ぼくとわたしの絵画展(藤沢) ・こんにちわはふじの実学園 ・皆川洋一の畦道考 	<p>38</p> <p>ニュース&インフォメーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリースタイルモトクロス ・明るい選挙標語ポスター審査 ・9月10日から自殺予防週間 ・藤沢幼年消防クが県会長表彰 ・東儀秀樹コンサート ・国民年金 	<p>16</p> <p>総力特集</p> <p>人の心に寄り添い続けたまちづくり 藤沢エタニテイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・36 悠久の流れと共に生きる ・34 ビジョン&アクション ・32 きつと ・30 もつと ・28 ずつと ・20 自治礼讃 ・18 パッション&ミッジョン 	<p>4</p> <p>巻頭特集</p> <p>白熱する赤炎、藤沢野焼祭 祭りの本能</p>	<p>2</p> <p>フロントページ</p> <p>千葉タカネさん</p> <p>やさしくて強い明治生まれの藤沢美人 家族や仲間にもまれ長寿を祝う</p>
--	---	---	--	---



<p>60</p> <p>わたしの夢</p> <p>菅原裕次郎さん</p> <p>新沼小6年</p>	<p>58</p> <p>フォーカス</p> <p>ECC英語暗唱大会で優秀賞 村上いろはさん</p>	<p>54</p> <p>第5特集</p> <p>黄海スパークキッズが県準V 町立最後の夏 岩手で「銀」</p>	<p>50</p> <p>第4特集</p> <p>最後の夏の成人式 古里の夏に きらめく新成人</p>	<p>46</p> <p>第3特集</p> <p>東日本大震災から6カ月 心に届け、 復興の応援歌</p>	<p>44</p> <p>9月のお知らせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国税等の申告納付は9月30日 ・秋は農作業事故に注意 ・無料成年後見相談会を実施 ・日越交流ホストファミリー募集 ・文化交流センターの名称変更 ・休日当番医・戸籍の窓 ほか
---	--	---	--	--	--

Front page



満100歳の誕生日を迎えた
千葉タカネさん



やさしくて強い明治生まれの藤沢美人
家族や仲間にもまれ長寿を祝う

特別養護老人ホーム「光栄荘」に入所している千葉タカネさん＝藤沢字馬ノ舟＝は9月1日、100回目の誕生日を迎えた。タカネさんをはじめ100歳以上は町内に6人。町は喜びに包まれた。

タカネさんは1911年、黄海字古堂に4人きょうだいの末っ子として生まれた。若い頃は、一関市内の製糸会社に勤め、37年眞作さんと結婚。結婚後は、家事の傍ら夫と共にタバコ、養蚕や稲作など農業一筋に生きてきた。優しくきれいな好き。朝から晩まで畑に出かける働き者だった。2男4女の子宝に恵まれ、孫は16人、曾孫は23人もいる。

趣味は旅行。63年に眞作さんを亡くしてからは、老人クラブや地域の仲間と出かけるのが楽しみだった。特に湯治旅行が好きだった。

17年前、脳梗塞を発症。生死をさまよい、医師から「回復は難しい」と言われた。だが、驚異の回復を見せ、つらいリハビリも乗り越えた。右半身と言語に後遺症が残るが、車いすの移動も食事も自力で行う。95年に光栄荘に入所。長生きの秘けつは「好き嫌いせず何でも食べること」と笑う。

100歳の誕生会は同日、同荘で行われ、畠山博町長と菊地隆町老人クラブ連合会長らがお祝いに駆け付けた。施設の職員や家族が見守る中、畠山町長から「これまでのご苦勞に敬意を表します。これからも光栄荘で楽しく過ごしてください」と「寿」と直筆した色紙が贈られた。

長男信一さんは「きちょうめんで温厚な性格。病気の時は厳しいリハビリにも耐えるなど、頑張り屋でした」と振り返り、「こんなに長生きできるのは光栄荘の皆さんのおかげです」と感謝した。

明治、大正、昭和、平成と4つの時代を生きてきたタカネさんは藤沢の誇り。100年目の笑顔は宝だ。

CHIBA TAKANE

1911年藤沢町黄海字古堂生まれ。一関市内の製糸会社に勤務後、37年眞作さん(故人)と結婚。家事の傍ら家業の農業に従事。2男4女を育てる。趣味は旅行。94年脳梗塞発症後、95年から同荘に長期入所。100歳。

1) お祝いに駆け付けた家族、畠山博町長、菊地隆町老人クラブ連合会長と記念撮影 / 2) 畠山博町長から贈られた「寿」の色紙は、町長の直筆 / 3) 施設から贈られたタカネさんの肖像画もまた、職員が描いたもの



巻頭
特集

白熱する赤炎、藤沢野焼祭

祭りの本能

会場に足を踏み入れると

アドレナリンが一気に吹き出してくる。

そんなエキサイティングな祭りが

「縄文の炎・藤沢野焼祭」だ。

縄文時代そのままの手法で土器を作り、焼く。

素朴な土の香りと激しい炎に、

参加者は心躍らせ、胸弾ませる。

炎の魔力には、もう誰もあらがえない。



5



3



2



4

1) 縦8基、横4基の穴窯一つずつ丁寧に作品を入れていく／2) 薄暮の大地に縄文太鼓が鳴り響く／3) 藤沢中の男子生徒が縄文時代を再現した道具を使って火をおこした／4) シンボル「縄文の炎」に点火する皆川洋一藤沢野焼祭実行委員長／5) エネルギッシュなよさこい踊りで祭りを盛り上げた「藤沢 YOSAKOI 炎武」／6) 息もぴったり縄文の踊り「もんじょりど〜」／7) 迫力の演奏を披露した「仙台ビッグベアー・ライトミュージックオーケストラ」／8) 東京や横浜で活躍する「Simple-∞」はやさしい音楽で観客を魅了



6

静寂を破る縄文太鼓が鳴り響く中、縄文人が登場。祭りの開幕を告げる「火入れの儀」が始まった。突然降り出した雨にもかかわらず、縄文人に扮した藤沢中男子生徒たちが、木をこすり合わせる当時の手法で種火をおこす。やがて、煙が立ち上り、会場から拍手が沸き起こる。

小さな炎は、畠山博町長と皆川洋一実行委員長の手で、丸太を井げた状に組んだ祭りのシンボル「縄文の炎」に点火された。勢いよく燃え上がる炎は、やがて、巨大な火柱となって、薄暮の大地を真っ赤に照らす。

作品が入られた縦8基、横4基の穴窯14基には、細川弘之副審査委員長らが分火。つぼ、皿、はにわ、造形美あふれるミニメントなど1016点の作品が夜を徹して豪快に焼き上げられた。会場一面が火の海と化す壮大な原風景は、参加した多くの人々の心を揺さぶり、古代へのロマンをかきたてた。

今年3・11の津波で被災し、沿岸部から本町に移り住んだ人々を祭りに招いた。藤沢岩手ライオンズクラブ（畠山二三夫会長）は「復興支援テント村」を開設、藤沢町女性組織連絡会議（千葉とき子

会長）は飲食に利用できる商品券を配布して被災者をもてなした。また、募金箱を設置して祭りの参加者に義援金の協力を呼びかけた。

オープンニングセレモニーでありさつに立った畠山博町長は「東北の力を結集し、被災地の皆さんと共に創造的な復興再生に向け全力を尽くしたい」と述べた。

特設ステージでは▼おなじみの「二日町祭神太鼓」▼藤沢小児童で構成する「FMB 32マーチングバンド」▼縄文踊り「もんじょりど〜」▼有志によるよさこいグループ「藤沢 YOSAKOI 炎武」▼地元ロックバンド「THE BEAT WAVE」▼横浜や東京で活動する「Simple-∞」▼結成35周年のビッグバンド「仙台ビッグベアー・ライトミュージックオーケストラ」が、多彩なパフォーマンスで祭りを盛り上げた。

祭りは古代縄文式野焼きの原型を復元しようと実践考古学者塩野半十郎氏（故人）が提唱、藤沢焼窯元・本間伸一氏が中心となって始めた土と炎の祭典。今年で36回を数えた。一関市との合併に伴い、藤沢町としては最後の開催となった。

全ての人を楽しめる本能を刺激する祭り



12

9) 縄文食堂では「縄文はにわ焼き」や「みょうがの葉焼き」など古代縄文食を提供。どれもこれも、ここでしか味わえないおいしさ／10) 自慢の歌声で観客を魅了したしらみちよさんは震災の復興支援に訪れた／11) 自治会や学区ごとに設置したテント村。世代を超えてにぎやかに交流／12) 合併相手の勝部修一関市長も参加。町民と交流を深めた



10



9

Jomon Noyaki Festival 2011 天空を焦がす縄文の炎 時空を超えて次代へ

「縄文の炎・藤沢野焼祭 2011」は8月6、7の両日、藤沢運動広場「特設縄文村」で開かれ、町内外から出品された大小1,016点の個性あふれる作品が14基の穴窯で豪快に焼き上げられた。合併を控え、藤沢町最後となる縄文の夏を追った。



10

7) 作品を審査するリチャード・スタウピッツ審査委員。力作ぞろいの作品に審査は難航／8) 作品の出来映え、アイデアや特徴を厳正にチェックする細川弘之副審査委員長。毎年レベルが上がっていることに驚いていた／9) 岡本敏子賞を受賞した長沼幸子さんは山形市から参加。一昨年と昨年、2年連続で塩野半十郎大賞を受賞／10) 早朝の窯出し。真っ白い灰の中からまだ熱い作品を慎重に取り出す。その緊張感は言葉にできない



7

藤沢野焼祭 2011 作品審査入賞一覧

賞	作品名	氏名	県名
塩野半十郎大賞	森もり元気な きのみっこ	黄海幼稚園・保育園さくら・ゆり組共同作品	岩手県
藤沢町長賞	立つ	やえがしあつし	岩手県
岡本太郎賞	千松メリーズ	千松自治会	岩手県
池田満寿夫賞	海を越えた・トルソ	児玉智江	岩手県
岡本敏子賞	縄文三大美人	長沼幸子	山形県
辻清明賞	金超沢ダムを守る獅子神様PART5	第39区自治会	岩手県
辻協賞	星をめざせ・かいぞく船	石川舜典・堯郁・絢宥子	岩手県
	ふくら	第36区自治会	岩手県
	縄文の女神達	沢内義明	山形県
縄文野焼賞	六瓢息災セット	渡辺嘉昭	宮城県
	ユニコーン・リベンジ	28区A 佐藤佑	岩手県
	復興祈願地藏	第43区自治会	岩手県
県南広域振興局長賞	狩りセット	加藤清志	宮城県
藤沢町議会議長賞	阿王台土器深鉢	拝寄そよ子	群馬県
町自治会協議会長賞	オニヤンマ	菊地拓真	岩手県
町芸術文化協会長賞	〇・〇・森・森・夢がいっぱい黄小の森	黄海小学校5年生	岩手県
JAいわい東組合長賞	藤沢スカイツリー	14区・15区 須藤亜希乃	岩手県
町観光協会長賞	今日の野菜	児玉義正・児玉智江	岩手県
町老人クラブ連合会長賞	トリケラトプス	金野竜也	岩手県
町工業倶楽部会長賞	こんにちがカメ	千葉華凛	岩手県
町商工会長賞	みんな一つ手をつなごう	第24区自治会	岩手県
岩手日報賞	オルメカ人のランゴバルド三兄弟	17区・18区B 小野寺裕貴	岩手県
岩手日日賞	ぼくのは、ぞうさんのみみ	千田大貴	岩手県
河北新報賞	コケッコー!! アンドピヨピヨ!!	佐竹輝良	岩手県
町女性組織連絡協議会長賞	百年をみつめて皆の輪・和・笑	中嶋パンアート教室	宮城県
町国際交流協会長賞	菊地真輝	ディーガルマンモスとうさぎ	岩手県
藤沢岩手ライオンズクラブ会長賞	9区・23区A 佐藤浩史	祖霊像	岩手県
ファミリー賞	おめん	佐々木想	岩手県



8

作品は粘土130キを使った大作。大きな木の周りにたくさん人や動物が集う楽しくてやさしいコミュニケーションが表現されている。黄海の子どもたちの元気と

震災に負けないメッセージなども込められている。さくら組の千葉百華ちゃん「小さいものは私たちが作った。大きいものは先生が作った。一番になってうれしい」とっこり。古川栄子園長は「野焼祭には82年から参加している。入賞は何度かあるが、最高賞は初めて。とてもうれしい」と、伊勢田布美保育士は「子どもたちと力を合わせて2週間ぐらいで作った。町立最後の年の大賞は感慨深い」と喜んだ。辻清明氏(故人)の長女

辻けい特別審査委員(現代美術家、東北芸術工科大学教授)は「震災で多くの尊い命を奪った土と水は怖いものだった。でも、私たちはそれを生命感あふれるものに変え、生きる力に使うことができる。多くの希望ある作品に救われた気がする」と講評した。

Iseda Fumi

黄海幼稚園・保育園 伊勢田布美保育士



私は気仙沼市出身。野焼祭の作品制作に関わって今年で7年目です。大木の制作は難しく、割れたり、ひびが入ったりしないように「成形しては乾燥する、そしてまた成形する」の繰り返しでした。子どもたちは、お父さんやお母さんの力を借りずに自力で作りました。みんなで頑張った作品が最高賞に選ばれ、本当にうれしいです。



9



塩野半十郎大賞を受賞した黄海幼稚園・保育園さくら・ゆり組共同作品「森もり元気な きのみっこ」。作品を前に喜ぶ園児と保育士

Jomon Noyaki Festival 2011

園児と職員が共同で力作
最高賞は黄海幼保園

作品審査は7日、午前8時45分から行われた。1,016点の中から最高賞の塩野半十郎大賞には、黄海幼稚園・保育園さくら・ゆり組共同作品「森もり元気な きのみっこ」が選ばれた。

7日午前7時。14基の窯で焼成された作品の窯出し作業が始まった。真っ白い灰の山から次々と作品が取り出される。一晩かけて命が吹き込まれた作品との再会に、あちらこちらの窯から歓声上がる。作品審査は午前8時45分から行われ、映像・写真家の細川弘之副審査委員長をはじめとする8人が厳正に審査した。第1次で70点を選び、第2次で28点に絞り、第3次で各賞を決めた。審査の結果、最高賞の塩野半十郎大賞には、黄海幼稚園・保育園さくら・ゆり組共同作品「森もり元気な

Chiba Momoka

黄海幼稚園・保育園 千葉百華ちゃん



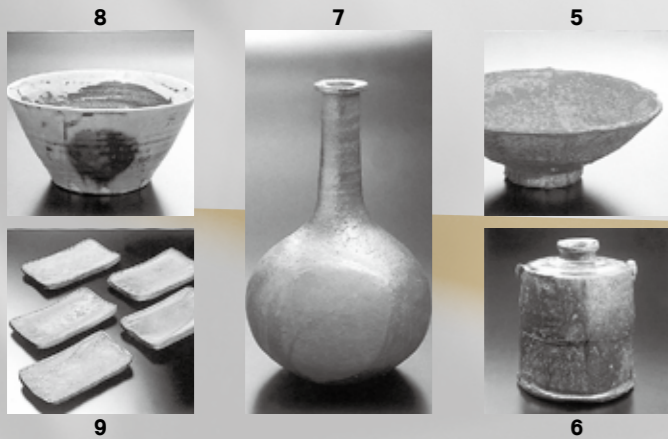
おおきなきせんせいがつくったよ。ちいさいひとやどうぶつは、みんなで作ったよ。わたしがつくったのは、きにぶらさがっているひと。たのしくあそんでいるところ。いちばんのしょうをもらえて、とてもうれしいです。



1) 藤沢町長賞のやえがしあつしさん／2) 岡本太郎賞の千松自治会／3) 辻協賞の石川舜典君・堯郁君・絢宥子ちゃんきょうだい／4) 縄文野焼賞の第43区自治会／5) 池田満寿夫賞の児玉智江さん／6) 縄文野焼賞の第36区自治会



Honma Shinichi
1948年宮城県美里町生まれ。陶芸家。73年藤沢町へ移住。藤沢焼粉香木窯を開く。藤沢焼窯元。藤沢野焼祭の創始者。63歳、黄海宇西深萱在住



町中心部から西へ車で10分ほど走った黄海宇西深萱の高台に本間伸一さんの窯がある。1973年に藤沢町に移り住み、窯を開いて38年がたった。

本間さんが陶芸家を目指したのは学生時代。東北大在学中に北陸を旅した。その時、武生市の蔵で見た壺



と珠洲市役所にあった瓶に圧倒され、陶芸家への好奇心がかき立てられた。

本間さんの作品は全て手作りだ。作品の多くは成形後に釉薬を付けずに焼く「焼き締め」。土の魅力を最大限に引き出している。

転機が訪れたのは70年代後半。テレビや新聞が盛んに取り上げるようになり、「本間伸一が作る藤沢焼」の知名度は日増しに高まった。県内外から深萱の山里に足を運ぶ陶芸ファンが増えた。東京、大阪、仙台など大都市

Art of Jomon

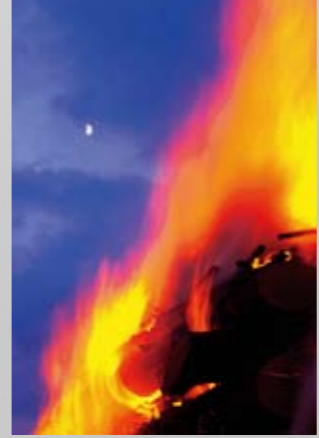
世界が認めた「藤沢焼」

【文化】藤沢焼窯元・本間伸一

の有名百貨店やギャラリーで個展を開くようになった。04年秋には、ドイツ・ゲラ市のゲラ応用美術館で特別展を開催。本間さんは「見る」「飾る」という芸術としての陶器が定着しているドイツで、「日常使い」という暮らしに溶け込む文化としての陶器の魅力を紹介し、関係者を驚かせた。

土と語り、炎と向き合った作家本間伸一の作品は世界に認められた。「藤沢焼」は、町が全国に誇る地域ブランドである。

4) 工房でろくろを使って成形する本間伸一さん。本間さんの作品はあくまでも自然な風合いなのに研ぎ澄まされていて繊細。シンプルでありながら重厚感がある / 5) 灰軸平鉢 (W235mm×H115mm) / 6) 自然釉花生 (W135mm×H365mm) / 7) 鶴首花入 (W150mm×H220mm) / 8) 灰釉茶碗 (W170mm×H50mm) / 9) 焼締長角皿 (W190mm×110mm×H25mm)



陶芸を志す一人の青年が町に窯を開いた。遠い祖先が窯を築き、焼き物を生産していたこの地に原始の心を呼び戻す炎が再び燃え上がった。

**時を超え蘇った
原始の心**

藤沢町には、縄文時代の遺跡が町内各地に点在する。中でも、西口地区の「十文字集落」は、古くから遺物を表面採取できる地域として知られていた。

町は1992年、同地区に体育館を建設するため、緊急発掘調査を行った。調査の結果、確認された遺跡は、土壇13基、竪穴式住居跡4棟、掘立柱建築跡1棟、炉跡1基など。発掘された遺物の中には、珍しい岩偶(石で作られた人形)もあった。出土した土器から十文字集落は、縄文時代中期(約

4500~5000年前)の遺跡と推定されている。標高148mから155mに位置する十文字遺跡は、舌状に突き出た馬の背のような丘を中心に広がっている。遺跡からは、北側の高鳥夷山をはじめ、周囲の山並みを一望できる。

遺跡の北東には、六十里遺跡、北には十文字留の森遺跡、沢を越えた北西には切付遺跡がある。これらは、いずれも縄文時代後期の遺跡とされている。さらに周辺には、富周館、柳沢館など中世の城館跡などもある。

History of Jomon

縄文時代中期の遺跡群

【歴史】西口地区の「十文字集落」



1) 十文字遺跡の発掘調査
2) 発掘された土器
3) 石で作られた人形「岩偶」

縄文時代。この地に生きた私たちの祖先は、森羅万象全てに宿る神を敬い、自らの魂を見つめてきた。豊かな幸に恵まれ、自然と共に暮らしていた。これらを教えてくれるのが、世界で最も古く、優れた芸術作品といわれる「縄文土器」である。

「藤沢野焼祭」は、縄文時代そのままの手法で土器を焼き、素朴な土の香りと激しい炎の中に、現代人が忘れがちな自然への祈りや精神的な豊かさを取り戻そうとする「土と炎の祭典」である。

1975年、藤沢焼窯元の本間伸一さんは「祭りのない藤沢町で、人を呼び、感動できる祭りはないものか」と模索。翌76年、実践考古学者の塩野半十郎氏(故人)が本町に足を運んで古代縄文式野焼きを用いた祭りを提唱し、藤沢野焼祭が誕生した。

当時の藤沢町は急激に進んだ過疎で、古里を離れる若者が後を絶たなかった。過疎で怖いのは人口の流出だけではない。むしろ、町民が地域への誇りや希望までも失ってしまふ「心の過疎」の方が怖い。

そんな中、土をこねて土器を作り、火をおこして焼く祭りに、住民は心を躍らせた。あれから36年。藤沢焼は地域のブランドになった。藤沢野焼祭は全国に誇れる祭りへと発展した。進化を遂げるために、あえて古代のロマンに思いをはせ、縄文に夢をかけて歩んできた道のは、地域、住民、行政が協働で挑んだ過疎再生の歴史でもある。

縄文の炎。それは「祭りを地域振興のバネにしよう」と、住民と行政が手を携え、新しいまちづくりに挑んだ古里再生の「炎」である。

岡本太郎が選んだ場所

【誇り】ブロンズ像「縄文人」



縄文の立派な遺跡がある所は、東北地方には、たくさんあります。また縄文土器も、国宝になるような素晴らしいものを発掘したところもあります。しかし私の「縄文人」は、そのような所に過去の偉大さの象徴として置かれるよりは、いま、その土地に生きている人たちが縄文人であり、そして縄文の生

き方を、現在形で世界に向かって発信するような、そういう所に置きたいのです。第15回岩手・藤沢野焼祭に、「縄文人」を送りました。その祭りに参加したところ、何十という野焼きの炎の燃え上がる壮大さに、すっかり興奮。それにもまして、町民の皆さんが本当に楽しそうに、「一生懸命、かつ無条件、無償で、生き生きと祭りを盛り上げている、その熱気に感動しました。」

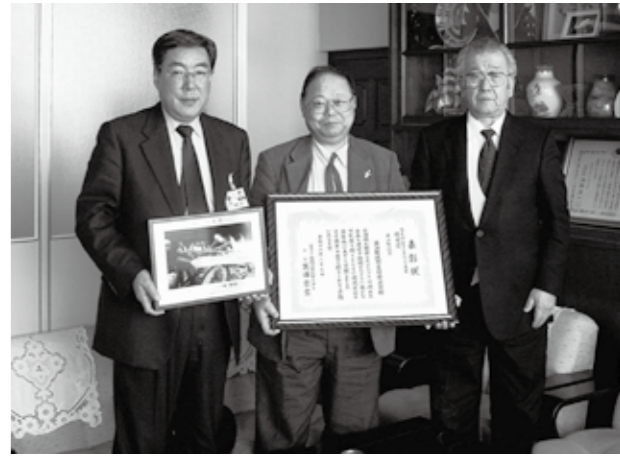
この町民の皆さんのあり方が、まさに縄文人です。ここには縄文人がたくさんいる。この祭りは本当に縄文人の祭りだと嬉しくなっていました。祭りが終わっても、「縄文人」の彫刻をこのまま残してほしい、という町の強い希望に応えて、ここ藤沢町にブロンズ彫刻「縄文人」を寄贈いたします。私の願いは、ここから縄文人をどんどん増やして、日本中、世界中、あの祭りに参加している皆さんのような、生き生きとした顔、動きが宇宙に満ちていく、その原点・藤沢であってほしいと思います。

一九九二年八月十六日
岡本太郎

祭りには本能 陶芸は理性



川洋一実行委員長は「町の個性を生かした長年の取り組みが評価されてうれしい。これからも息の長い活動が続けていきたい」と話している。藤沢の夏は縄文一色に染まる。心躍り、胸弾む野焼祭が「本能」なら、藤沢焼をはじめとする研ぎ澄まされた陶芸の数々は「理性」と言える。いずれにも共通していることは、不屈の縄文スピリットが宿っていることだ。



1)「第10回ふるさとイベント大賞」で県初の優秀賞を受賞(2006年3月)。写真右から佐藤守前町長、皆川洋一藤沢野焼祭実行委員長、高橋武司前生涯学習文化課長/2)今年2月には、栄えある岩手日日文化賞(地域振興部門)を受賞。山岸学岩手日日新聞社社長から表彰される皆川委員長/3)文化交流センター前庭に設置されたブロンズ像「縄文人」は、祭りに感動した岡本太郎氏から寄贈されたもの

1976年、藤沢野焼祭が始まった。小さな炎は年々大きく広がり、町中に縄文人があふれた。岡本太郎氏は、そんな藤沢を「縄文の里」に選んだ。



「藤沢野焼祭」は、町が全国に誇る藤沢の夏の風物詩だ。第1回の出品数は300点。窯は6基だったが、何もかも手作りの祭りに参加した町民は心を躍らせた。「野焼祭は面白い。こんな祭りは見たことがない」

祭りは好評だった。作品を作る人、窯を造る人、料理を作る人、火をおこす人、まきをくべて焼く人など、みんなが主役だった。みんなが夢中になった。こうして、過疎の町に灯された小さな炎は、回を重ねるごとに大きな広がりを見せた。参加者と作品は加速的に増え、80年の第5回からは会場を藤沢中学校グラウンド(現藤沢運動広場)に移し、「特設縄文村」を設置して全町的な祭りとして開催した。

祭りが大きく開花したのは90年の第15回。洋画家の岡本太郎氏(故人)、版画家の池田満寿夫氏(故人)、陶芸家の辻こうした町を挙げての取り組みは各方面から高い評価を受けた。99年に「全国地域づくり表彰」で最高賞の国土庁長官表彰と地域づくり全国交流会議実行委員会会長表彰をダブル受賞、06年には地域活性化センター主催の「第10回ふるさとイベント大賞」で県内初の優秀賞を、そして今年2月、岩手日日文化賞を受賞した。

藤沢野焼祭実行委員会の皆

近年では全国、さらには海外からの参加もある藤沢野焼祭。藤沢町と言えば「野焼きの町ですね」という答えが返ってくるほどになった。これまで祭りに出品された作品は延べ5万点、作品制作に携わった人は12万人を超えた。

こうした町を挙げての取

組みは各方面から高い評価を受けた。99年に「全国地域づくり表彰」で最高賞の国土庁長官表彰と地域づくり全国交流会議実行委員会会長表彰をダブル受賞、06年には地域活性化センター主催の「第10回ふるさとイベント大賞」で県内初の優秀賞を、そして今年2月、岩手日日文化賞を受賞した。



4)文化創造活動の拠点藤沢町文化交流センターとブロンズ像「縄文人」/5)縄文ホール舞台の緞帳は、野焼祭の感動を表現した岡本氏の絵画「炎」が原画/6)商店街の店先に並ぶ作品は、訪れる人を迎えている/7)自治会花壇などに作品を設置する「縄文街道整備事業」





2011
Jomon Noyaki Festival

みんなが主役 夏の風物詩

来年も、再来年も、その次も
またその次も
ニッポンの夏、縄文の夏

て古代のロマンに思いをはせ、縄文に夢かけて歩んできた道のりは、過疎から古里を再生したまちづくりの歴史でもある。地域、住民、行政が一つになって祭りを創り、築いてきたエネルギーが、まちづくりの原動力になっていることは言うまでもない。

来年も、再来年も、その次も、またその次も。どんな困難にも屈しない強い町民性は、この大地に国づくりの第一歩を踏み出し、この山河を愛し、たくましく村を切り開いてきた縄文人の悠久のロマンと重ね合わせる事ができる。

人々の琴線まで刺激する祭りは、そう多くはない。3千年の時空を超えて、よみがえる原風景は、私たちが古代へと誘う。20世紀から21世紀へと、時代を超えて受け継がれた土と炎の祭典「藤沢野焼祭」。この誇り高き古里の文化と不屈の縄文スピリットを後世へとつないでいくことが、今に生きる私たちの使命ではないだろうか。

古代、人間は自然界にある全てのものに、神が宿ると信じてきた。

森にうつそうと生える木々、広大な大地、燃え盛る炎、生命の源である水。人々は畏敬の念を持って、これらと向き合ってきた。

過疎との戦いだった藤沢に、野焼祭が誕生したのは1976年。実践考古学者・塩野半十郎さん（故人）が古代縄文式野焼きを用いた祭りを提唱し、藤沢焼窯元・本間伸一さんらが中心となって藤沢を象徴する「土と炎の祭典」が始まった。

土をこねて土器を作る、まきをくべて土器を焼く、そんな原始的な祭りに、過疎の町に生きる町民は心の豊かさを求めてきた。かつて、縄文人たちが繰り返してきた営みは今なお、この地で受け継がれ、燃え盛る炎が藤沢の今を、未来を照らしている。

藤沢町として最後の開催となった36回目の藤沢野焼祭。この祭りは、単なる祭りではない。この炎を絶やしてはならない。進化を遂げるために、あえ

古代、人間は自然界にある全てのものに、神が宿ると信じてきた。

森にうつそうと生える木々、広大な大地、燃え盛る炎、生命の源である水。人々は畏敬の念を持って、これらと向き合ってきた。

過疎との戦いだった藤沢に、野焼祭が誕生したのは1976年。実践考古学者・塩野半十郎さん（故人）が古代縄文式野焼きを用いた祭りを提唱し、藤沢焼窯元・本間伸一さんらが中心となって藤沢を象徴する「土と炎の祭典」が始まった。

キリシタン殉教という先人の崇高な歴史を今に、未来に伝える「大籠キリシタン殉教公園」。全国から殉教をしのぶ人が訪れている

誘
いた
いま
ち、
誘
われ
たい
いま
ち

人の心に寄り添い続けたまちづくり

ずっと、

(総力特集)

藤沢エタニティー

もつと、

ETERNITY
Fujisawa

きつと。

誕生から56年、人の心に寄り添い続けた藤沢のまちづくり
創造の連続がここにしかない地域資源を生み出し
無垢の町に無二の魅力や価値を創り出してきた
ここには、ずっと、大切にしたいものがある
ここから、もつと、輝かせたいものがある
ここなら、きつと、幸せになれる、そんな予感がある
エタニティー。この町は生きている、永遠の輝きを放ちながら

行政の使命は愛と情熱で 住民一人一人の幸せをつくること

藤沢町長 畠山 博

スウェーデン語に「オムソーリ」という言葉がある。「悲しみの分かち合い」「やさしさの与え合い」という意味が含まれている。オムソーリの心こそ、まちづくりの原点だと思っている。

幸せは連鎖する。笑顔は伝染する。誰かを支えると、支えられた人はもちろん支えた人もやさしい気持ちになれる。全ての人が「オムソーリ」の心を失わないことが重要であり、これがやさしい地域社会の構築に大きな影響を与えることは言うまでもない。

人の幸せを素直に喜べる人は、それだけで幸福感を得られるようになり、当たり前のことを幸せに感じられるようになる。少子高齢化が加速する今、互いに支え合い、小さなやさしさにも大きな幸福感を得られる、そんなコミュニティの形成が重要だと思う。

行政の使命は住民一人一人の「幸せ」をつくることだ。日本は今、社会構造の大きな変革期にある。地域には新たなデッサンが求められており、幸せづくりの環境も時代に適応したものに変えていかなければならない。そのためには、広域的な視点と長期的な展望でまちづくりを考え、持続可能なサービスを提供していくことが重要だ。一関市との合併はそのための手段。激変する社会情勢に耐えることのできる「強い自治体」は、「幸せづくり」の大前提になる。

1955年4月1日、旧藤沢町、黄海村、八沢村と大津保村の一部が合併して、今の藤沢町が誕生した。当時、本町は中山間地という地理的ハンディなどから、農業基盤や観光施設などの地域資源に乏しかった。以来、半世紀以上にわたって住民と行政が一体となって地域が必要とする施策を展開してきた。個性や希少性を打ち出してきた。

国・県営事業など大型プロジェクトを導入して農業生産基盤を整備した。12社を誘致して地元はもとよりUJIターン者の働く場所を確保した。保健・医療・福祉の連携による地域包括ケアは、町民の健康、命、暮らしを守っている。野焼祭や町民劇場など地域文化の創造・発信にも力を入れてきた。過疎

に泣いた町は今、全国から多くの人が集まる町に変わった。

私たちはパッション（情熱）とミッション（使命）で、アクション（行動）を起こし、魅力ある古里を創生してきた。その住民力こそ、このまち最大の地域資源だと思う。創造の連続が価値や魅力を創り、未来を切り開くエネルギーを生み出してきた。

合併はゴールではない。未来へのスタートだ。行政も、地域も、今まで以上に古里を愛し、高い意識と不屈の精神でまちづくりに挑んでいくことが大事だ。激動の時代に、未来を開くまちづくりのカギは5つの「C」だ。

●Change（チェンジ）—地域も、行政も、意識を改革することが大事だ。意識が変われば行動が変わる。行動が変わればまちは変わる。

●Challenge（チャレンジ）—あらゆるプロジェクトの成功者もその第一歩は挑戦者。過疎に泣いた町が不屈の精神で挑み続け、古里を再生したように、挑戦が道（未知）を開く。

●Communication（コミュニケーション）—信頼関係を築くために大切なことは対話。双方向の情報共有はまちづくりの基本。

●Community（コミュニティ）—住民自治の推進母体は自治会。元気なコミュニティが元気なまちをつくる。

●Collaboration（コラボレーション）—藤沢の優れた点は、合併後も生かしていくべきだ。一関の優れた点は、どんどん取り入れていくべきだ。「協働」は、互いを認め合い、尊重し合いながらまちづくりを進めることだ。

合併すれば藤沢町という自治体はなくなる。だが、私たちがここに住み、ここで生きていくことに変わりはない。確かなこと。それは、古里はなくなること。「住民自治」はこれまで以上に重要なこと。

さあ、新たな時代に大きな夢と希望を持って、立ち止まることなく、一步一步前に進んでいこう。

PROFILE 1948年藤沢町生まれ。岩手大工学部卒。東北日本電気など民間企業を経て80年藤沢町嘱託の企業誘致専門員になる。81年町職員に。商工観光課長、企画室長などを歴任し、2000年助役、07年町長に就任。現在2期目。趣味は洋ランの栽培。藤沢字町在住、62歳

自分のためより
誰かのために頑張る方が
人は幸せになれる
それがオムソーリの心



町役場の前に、石を積み上げ造られた「希望のケルン」が立っている。今から21年前の1990年11月、当時1万2千町民と町内43自治会が持ち寄った石（意志）を積み重ねて造られた、ふるさとづくりに挑むさらなる意志を表明した記念碑だ。

55年4月、1町3村が合併して現在の藤沢町が誕生した。しかし、60年代に過疎化が進み、71年に過疎地域の指定を受けた。過疎で怖いのは、人口流出だけではない。むしろ、町民が地域への誇りや希望を失ってしまう「心の過疎」の方が怖い。

そんな中、地域を再生するために選んだ道が住民自治だった。まず行政が厳しく反省した。次に、住民に自ら進むべき道を考える住民自治を促した。町内43行政区に地域担当職員を張り付けて、地域の将来を考える地域懇談会が始まった。「地域を再生する力は住民自治しかない」という機運が町中に広がった。

73年から町内各地で自治会の結成が始まった。住民は、活動拠点の「自治会館」を自力で造った。地域計画の策定は、役場（行政）から住民（自治会）に託され、住民のアイデアや要望は「地域ミニ計画」を通して町に提出された。町はこのミニ計画に基づき総合計画を作った。

以来、住民自治は、環境美化活動から防災活動まで多様な分野で成果を上げてきた。環境美化活動は、10万本の花咲くまちを目指す「ビューティフル藤沢整備事業」をはじめ、「生活物資リサイクル集団回収事業」「クリーンアップ一斉清掃事業」などが全町に定着した。04年度からは、沿道の草刈りやのり面の支障木伐採などを行う「道路愛護事業」も行政区長から受け継いだ。

住民自ら地域をつくる取り組みは高い評価を受けた。01年に町自治会協議会が環境美化全国優良団体表彰を、04年に七日町

動から防災活動まで多様な分野で成果を上げてきた。環境美化活動は、10万本の花咲くまちを目指す「ビューティフル藤沢整備事業」をはじめ、「生活物資リサイクル集団回収事業」「クリーンアップ一斉清掃事業」などが全町に定着した。04年度からは、沿道の草刈りやのり面の支障木伐採などを行う「道路愛護事業」も行政区長から受け継いだ。

住民自ら地域をつくる取り組みは高い評価を受けた。01年に町自治会協議会が環境美化全国優良団体表彰を、04年に七日町

自治会が花いっぱい功労者表彰を、06年に町自治会協議会が「みどりの愛護功労者」として国土交通大臣表彰を受賞した。

合併を控えた今年8月には、こうした多年にわたる活動がたたえられ、町自治会協議会に国土交通大臣から感謝状が贈られた。小野寺恒雄町自治会協議会長は「みんなで取り組んだ活動が評価されてうれしい。近年は、大人だけでなく子どもたちも参加している。一人一人の古里を愛する気持ちの強さを感じている」と話している。

自治会が花いっぱい功労者表彰を、06年に町自治会協議会が「みどりの愛護功労者」として国土交通大臣表彰を受賞した。

合併を控えた今年8月には、こうした多年にわたる活動がたたえられ、町自治会協議会に国土交通大臣から感謝状が贈られた。小野寺恒雄町自治会協議会長は「みんなで取り組んだ活動が評価されてうれしい。近年は、大人だけでなく子どもたちも参加している。一人一人の古里を愛する気持ちの強さを感じている」と話している。

合併を控えた今年8月には、こうした多年にわたる活動がたたえられ、町自治会協議会に国土交通大臣から感謝状が贈られた。小野寺恒雄町自治会協議会長は「みんなで取り組んだ活動が評価されてうれしい。近年は、大人だけでなく子どもたちも参加している。一人一人の古里を愛する気持ちの強さを感じている」と話している。

合併を控えた今年8月には、こうした多年にわたる活動がたたえられ、町自治会協議会に国土交通大臣から感謝状が贈られた。小野寺恒雄町自治会協議会長は「みんなで取り組んだ活動が評価されてうれしい。近年は、大人だけでなく子どもたちも参加している。一人一人の古里を愛する気持ちの強さを感じている」と話している。

1 1955▶2011 まちづくりハイライト 町民主体のまちづくり

自治の中に自治を求め、古里を再生した住民自治

過疎化で人口は激減、町から離れる人が後を絶たなかった。そんな中、古里再生のために選んだ道は住民自治。自治会を中心とする協働のまちづくりはさまざまな分野で成果を上げ、誇りある古里を再生した。

主な全国表彰

- 藤沢町自治会協議会
2001環境美化優良団体表彰
／2006みどりの愛護功労者・国土交通大臣表彰／2011国土交通大臣感謝状
- 七日町自治会
2004全日本花いっぱい功労者表彰
- 藤沢町婦人団体連絡協議会
2005日本善行会表彰



1990年11月、当時1万2千町民と町内43自治会が石を持ち寄り造った住民自治のシンボル「希望のケルン」



自治礼讃

1955▶2011まちづくりハイライト
その輝きは色あせない

ある人は言う、「ここが原点だ」と
またある人は言う、「ここは頂点だ」と
さまざまな価値や魅力を創造してきた藤沢町
1955年から今日まで56年間の
ハイライトをプレビューする

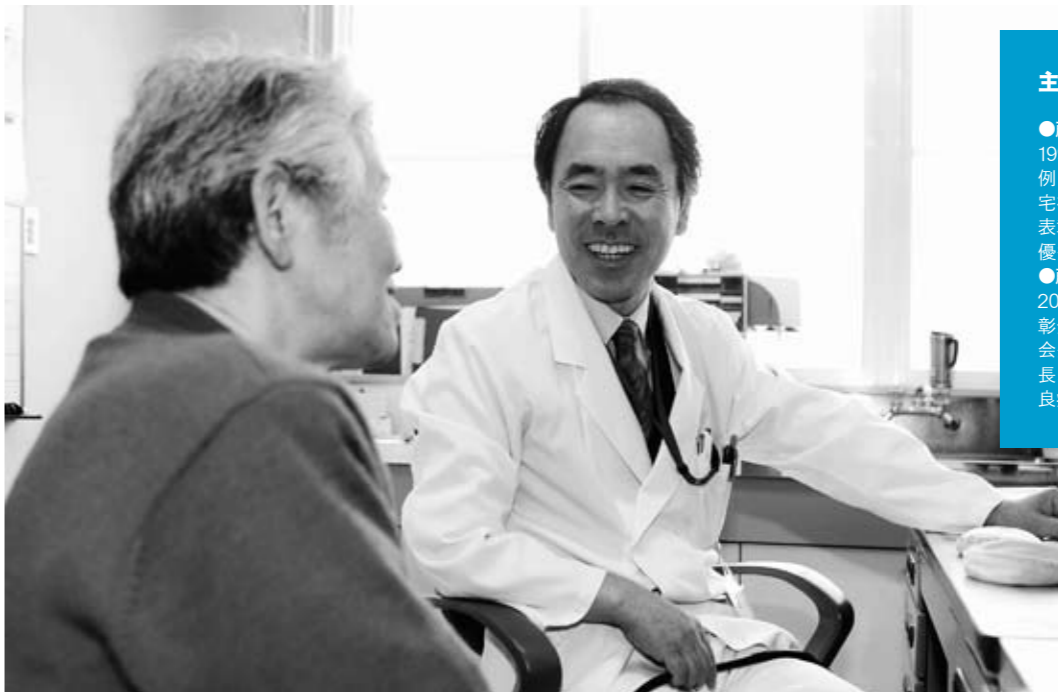
④希望のケルンの石碑。奥に見える自治センターは合併後、一関市役所藤沢支所になる／⑤小高い丘の上に建つ「大籠殉教クルス館」へ続く階段は309段。殉教者の数だ。地域の歴史を文化に変えて創造、発信する藤沢町のまちづくりの象徴でもある



主な全国表彰

●藤沢町
1995 過疎地域活性化優良事例国土庁長官表彰 / 1996 在宅福祉事業推進功労厚生大臣表彰 / 1997 メロウ・グランプリ優秀賞

●藤沢町民病院
2005 全国自治体優良病院表彰 全国自治体病院開設者協議会長・全国自治体病院協議会長表彰 / 2006 全国自治体優良病院表彰総務大臣表彰



町民の健康、命、暮らしを守る地域包括ケア。外来診療を行う佐藤院長。患者を安心させるこの笑顔こそ一番の処方せん

町役場そばの高台に建つ国保藤沢町民病院（佐藤元美院長）。長い間、医療過疎に悩まされてきた本町が苦闘の末に築き上げた地域医療のとりでだ。一日平均140人の外来診療に加え、保健・医療・福祉の二元化によって生まれた「地域包括ケア」を提供する自慢の病院だ。

かつて町民は、医療を求めて町外の病院を訪ね歩いた。亡くなる人の大半が、町外の医療機関で息を引き取った。多くの人が人生の終局を町外で迎えた現実、過疎脱却を目指して理想の古里づくりを進めてきた佐藤守前町長にとって「屈辱」だった。町は病院事業対策室を設置して、県など関係機関と交渉した。しかし、自治体病院が軒並み赤字経営を強いられる中で、なかなか許可は下りなかった。「単なる病院ではない。高齢社会を支える中核施設として必要だ」。断られても粘り強く交渉する町長。町議会も「町立病院建設を最優先課題とする」ことを全会一致で決議。町を挙げての病院建設運動は、とうとう県を動かした。

こうして93年国保藤沢町民病院が開院。以来、「忘己利他」の理念を信条に、中山間地のニーズに応える地域包括ケアを展開。「病気を診る」医療ではなく、町民一人一人の「暮らしを見る」医療を提供してきた。

ベッド数は54床だが、入院や外来診療に加え、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリなどの在宅サービスを実施して、全ての人々が平等に医療を受けられる仕組みをつくった。

町役場周辺には、町民病院を司令塔に地域包括ケアを担う施設が林立する。▼保健センター▼指定居宅介護支援事業所▼介護老人保健施設▼訪問看護ステーション▼ボランティアセンター▼特別養護老人ホーム▼デイサービスセンター▼認知症高齢者グループホームと、その数9施設。

地域包括ケアと健全な病院運営は、各方面から高い評価を受け、06年5月には全国自治体優良病院として最高賞の総務大臣表彰を受賞、自治体病院日本一に輝いた。

佐藤院長は「ようやくもした医療の灯を絶対に消してはならない。そのために赤字は許されない、という固い信念で経営に努めてきた。黒字を続けてこられたのは、町民皆さんが、自分たちの病院として関わり、支えているから」と自信をのぞかせる。

1955▶2011
まちづくりハイライト

健康と福祉の里づくり

日本一の自治体病院と独自の地域包括ケア

保健、医療、福祉の垣根を取り払い、互いに連携することで、理想的な地域包括ケアを実現。かつて医療過疎に泣いた町は今、全国の自治体から注目される健康と福祉の里に。

1955▶2011
まちづくりハイライト
豊かで活力ある産業の振興

未来へとつながる農業 活力がみなぎる誘致企業

未来へとつながる農業・農村を目指す町、農業団体、地域が一体となった取り組みは、「農業という産業の価値」、「農村という環境の価値」、「田舎という文化の価値」を創出した。豊饒な藤沢の大地は今、産業の場としてだけでなく都市住民との交流の場にもなっている。

藤沢町は、古くから農業を基幹産業にしてきた。農村社会の発展は、農業それ自体の発展なくしてはありえない。しかし、町士の約6割が山林という本町は、農家1戸当たりの耕地面積が1畝に満たない零細農家がほとんどで、農業振興に向け、まずは基盤整備が不可欠だった。

豊かな農業・農村の再生に向け、町は「自治体農政」を推進。農業振興条例を制定し、地域の特性にあった作目による複合多角経営、機械化一貫体系による省力化、さらに大規模農場や協業化による農業経営への転換を目指した。

77年、総農家数の85%に当たる1780戸が参加して地域営農計画を策定。その6割が農用地の拡大を望んでおり、拡大希望面積は全町で2千haを超えた。新たに必要な土地は、もはや山林原野を農地に転用する以外に方法はなかった。

こうして国営農地開発事業を導入、すでに導入が決まっていた▼国営総合かん排事業▼藤崎地区国営かん排事業▼県営広域営農団地農道整備事業を加えた世紀の大型プロジェクトがスタートした。

一方、農工商全を目指して企業誘致活動も活発に行われた。遠くは関西まで奔走し、交通条件のハンデを地域の魅力で克服、地

域と共に歩み、未来を託せる12社を誘致した。

時代が平成になると、農業分野では、国営営農団地での果樹・野菜の振興、畜産におけるET技術の確立など、「作る農業」から「売る農業」への転換に向けて「藤沢型農業」を本格的に推進。館ヶ森エリアは「ファームマーケット」や「アーク牧場」を中心に、北欧をイメージさせる美しい農場に生まれ変わった。国営事業で整備した相川、金越沢、千松の3つのダムも完成し、豊饒な水の里がその全貌を現した。

広域営農団地農道は、物流はもとより都市の人々や情報をも運ぶ21世紀の大動脈として「花藤橋」から国道456号までの区間が整備された。さらに農産加工品の▼ハム▼ソーセージ▼スモーク▼豆腐▼納豆などは、町の特産品として多くの消費者から高い評価を得ている。これらは、農業分野に止まらず、観光面でも大きな成果を挙げている。

08年には館ヶ森エリアに、野生の王国「岩手サファリパーク」がオープン。本町には年間30万人以上の人が訪れるようになった。



色とりどりのチューリップが咲き誇る館ヶ森アーク牧場は、県内外から大勢の人が訪れる観光の拠点でもある

主な全国表彰

●藤沢町
1990 農村総合整備コンクール 農林水産大臣表彰
●藤沢土地改良区
1983 全国土地改良功労者表彰銅賞 / 1993 全国土地改良功労者表彰銀賞 / 1998 全国土地改良功労者表彰金賞

主な全国表彰

●深萱ピア推進協議会
1987農村アメニティコンクール
優良賞／1992豊かなむらづく
り運動農林水産大臣表彰



農村アメニティの確保に、地域を挙げて取り組んだ深萱ピア推進協議会。「椿園」に700本のつばきを植樹する会員たち

地域ミニ計画で最も多く出された要望は、道路や橋など交通網の整備だった。鉄道のない本町で道路は唯一の交通施設。町は長い年月をかけながら計画的に町道の整備を行い、国や県に対しても粘り強く要望を続けてきた。

現在、町内の道路網は、国・県道を縦横軸に町道や農道が網目状に張り巡らされ、生活基盤、産業基盤、さらには交流社会の基礎基盤として重要な役割を果たしている。

農村総合整備事業は75年に着工し、農道、集落道、農業用排水施設や農村環境改善センターなどを整備した。78年に始まった土地改良事業は、水田のほ場整備、農道の整備、ため池の造成などに成果を上げた。こうした農業基盤整備は、同時に快適な環境づくりにもつながっており、町土地改良区は83年、93年、98年の3度にわたって全国表彰を受けている。

特に近年、自然再認識時代の到来によって、豊かさの指標は物から心へと移行。農業・農村に求められる役割も年々多様化、高度化している。自然豊かな藤沢の大地は同時に、ここに住み、生きる人たちの生活空間でもある。町は、快適な生活環境と美しい農村環境の両面からまちづくりを進め、人と自然と産業とが見事に調和した「農村リゾート藤沢」を実現した。

4 1955▶2011
まちづくりハイライト
自然と調和した快適環境づくり

生活環境と農村環境を同時に整備する藤沢方式

農村は、食料の生産、供給基地であるとともに、四季折々の風景が安らぎを与えてくれる心のオアシスだ。自然豊かな藤沢の大地は、町民の生活空間でもある。生活環境と農村環境を同時に整備する藤沢方式は人と自然と産業とが調和した「農村リゾート」を実現した。

大規模な環境整備を町が行う一方で、地域の環境づくりは自治会を中心とする住民が担った。十萬本の花咲く町を目指し、88年にスタートしたビューティフル藤沢整備事業に代表される環境整備活動は、多方面から高い評価を得た。

豊かな自然、歴史や風土などを基盤に、ゆとりと潤いに満ちた居住快適性の確保にも取り組んだ。中でも深萱地区は、自治会を中心に11の団体が結びつき「深萱ピア推進協議会」を設立。地域資源を生かしたむらづくりは、87年に農村アメニティコンクールで優良賞を、92年には豊かなむらづくり運動で農林水産大臣表彰を受けた。

他に先駆け、79年から始まった水道施設の整備は、資本費がかさむ不利な条件を克服しながら計画的に進められ、整備率は100%だ。

96年に分譲を開始した住宅団地「サンパルナ名生城」は、UJITターン者や誘致企業で働く人たちが次々と購入、近代的な住まいが建ち並ぶ新しい街並みも誕生している。

5 1955▶2011
まちづくりハイライト
人材育成と地域文化の創造

住民主体の文化活動と未来を担う人づくり

豊かな心を育てるユニークな施策は町の未来を担う有能な人材を育ててきた。藤沢野焼祭をはじめとする文化創造活動も住民が主体となって進められている。いずれも地域の歴史や文化を生かした藤沢ならではのワン・オンリーの取り組みだ。

町の保育園は小学校の敷地であり、幼稚園と同居している。「幼保一体、幼小連携」の取り組みは79年、徳田地区を皮切りにスタートした。学習内容、保育時間や保育料などに違いのあった幼児教育の平等化とやがて進む小学校への入学がスムーズに行われるよう配慮したのもだった。

83年にスタートした国際交流は、人的、文化的交流で友情を深め、固い絆を築いてきた「草の根交流」だ。語学講師の招へい、中高生のホームステイ短期留学、一般町民の海外派遣など積極的な交流を繰り返してきた。93年には豪州デュアリンガ町（現セントラルハイランズ市）と国際友好親善の町（現国際姉妹都市）を提携、98年には交流のシンボルとして同町に日本庭園やセミナーハウスを建設した。

76年に始まった藤沢野焼祭は、今夏で36回を数えた。夏の夜空に赤々と燃え上がる「縄文の炎」は、年を重ねるたびに大きな広がりを見せている。祭りの創始者塩野半十郎氏、祭りに芸術性と命を吹き込んだ岡本太郎氏、池田満寿夫氏、岡本敏子さん、辻清明氏、辻協さんの6人は、残念ながら他界されたが、不屈の縄文精神と祭りを創造するエネルギーは、町に、人に、作品に、今なお息づいている。

91年に岡本太郎氏から寄贈さ

れたブロンズ像「縄文人」は、文化の町藤沢のシンボル。設置された藤沢町文化交流センターでは、藤沢町民劇場をはじめとする独自の文化を創造・発信している。大籠地区はキリシタン殉教の地だ。94年に町が整備した「大籠キリシタン殉教公園」には、全国各地から殉教者をしのぶ人が訪れている。先人の崇高な歴史を後世に伝えていく取り組みに、ローマ法皇ヨハネパウロ二世から祝福のメッセージが届いたのは95年。いかなる弾圧にも屈することなく信教の道を貫いた殉教者の活動を藤沢ならではの。

くましい生き方は、キリスト誕生2千年目の冬、藤沢町民劇場によって全国へと発信された。

スポーツはソフトボールが盛んだ。01年に全国中学校体育大会（全中）で日本一に輝いた藤沢中学校をはじめ、藤沢、黄海、新沼の3小学校はいずれも全国大会に出場している。町立校全てが全国の大舞台を経験している町は、おそらく全国的にも藤沢だけだろう。

そのほか園児から一般まで世代を超えて取り組むマーチング活動も藤沢ならではの。



2001年全国中学校体育大会で優勝した藤沢中ソフトボール部

主な全国表彰

●藤沢町
1999国際交流基金地域交流振興賞／2000世界に開かれたまちづくり自治大臣表彰

●藤沢野焼祭実行委員会
1999地域づくり国土庁長官表彰・地域づくり全国交流会議実行委員会会長表彰／2006ふるさとイベント大賞優秀賞／2011年岩手日文化賞

●藤沢小学校
1981全国保健体育優良校文部大臣表彰

●藤沢中学校
2001全国中学校体育大会女子ソフトボール競技優勝

◆ハイライトで紹介したほかにも
まだある藤沢の自慢と誇り

◆消防・防災活動

平成の町火消し藤沢町消防団と後方支援の域を超えた活動を繰り広げる藤沢町婦人消防協力隊は、全国に誇る消防組織だ。甚大な被害を受けた東日本大震災で、幸いにも人的被害を出さずにすんだのは、団員や隊員の活躍があつてこそだ。近年、町では自主防災活動も活発に行われており、防災の町藤沢は全国から注目されている。

- 藤沢町消防団
1981 建設大臣表彰 / 1989 消防庁長官表彰 / 2002 国土交通大臣表彰 / 2003 内閣総理大臣表彰
- 藤沢町婦人消防協力隊
1978 日本消防協会長表彰 / 1985 消防庁長官表彰



10年消防操法競技大会で町と一関支部大会を制し、県大会に出場した第2分団第2部

◆広報・広報活動

「まちの総合情報誌 Fujisawa」は、全国広報コンクールで内閣総理大臣賞2回、総務大臣賞(特選)5回など、これまで19回の入選を果たしている。一方、声の広報「有線放送」は、05年全国有線番組コンクールで優賞に入選した。同放送は地域情報基盤整備(ICT)事業の導入により、今年から告知放送に切り替わった。光ファイバーを使って最高品質の情報を届けている。

- 広報紙
1962 自治大臣表彰(広報紙) / 2002 総務大臣表彰(組み写真) / 2007 内閣総理大臣表彰(広報紙)、総務大臣表彰(組み写真) / 2009 内閣総理大臣表彰(広報紙)
- 有線放送
2005 有線放送番組コンクール優賞(企画番組の部)



全国広報コンクールで2度の内閣総理大臣賞に輝いたまちの総合情報誌 Fujisawa

町自治会協議会が 2度目の国交大臣表彰 環境美化に功績

合併を前に、藤沢町自治会協議会(小野寺恒雄会長)に国土交通大臣から感謝状が贈られた。同大臣からの表彰は2度目。長年、道路清掃や沿道美化に取り組んだ功績が評価されたもので、藤沢町として最後の大臣表彰に関係者は喜んでる。

川の「クリーンアップ一斉清掃」などを行っている。これらの活動は各方面から高い評価を受けており、06年には「みどりの愛護」功労者として国土交通大臣表彰を受賞している。

今回の感謝状は▼道路交通の安全と道路の正しい利用の推進▼路面・横断歩道橋の清掃▼路肩の除草▼花壇の整備―などに、多年にわたって取り組み、功績のあつた団体が対象。県内では同協議会のほか、住田町の27区道路愛護会と洋野町の金ヶ沢自治会が選ばれた。

は同協議会のほか、住田町の27区道路愛護会と洋野町の金ヶ沢自治会が選ばれた。伝達式は8月31日、盛岡市の「エスポワールいわて」で開かれ、若林治男岩手県県土整備部長から小野寺会長に感謝状と記念品が手渡された。若林部長は「環境が美化された道路を通ると地域のまとまりや古里への思いを感じる。道路愛護活動を地域の文化として継続してほしい」と祝福した。

小野寺会長は「町を挙げて取り組んだ大きな成果だ。感謝状は町民一人一人の努力と真心に対して贈られたものだと思つている。ビューティフル藤沢整備事業には、快適な生活環境の実現とあ



藤沢町最後の大臣表彰を喜ぶ小野寺恒雄町自治会協議会長と山田博町長

藤沢で芽吹き 大樹となる 力の源は 住民力にあり

たくさんの方の価値や魅力を創ってきたのは、この町に住み、この町に生きる人たち。藤沢のまちづくり、その力の源は「住民力」である。

町民の知恵と創意を結集し、過疎というかつて経験したことのない困難を乗り越えてきた藤沢のまちづくり。

保一体の取り組みは、30年以上たった今、少子高齢化への対応として、多くの自治体が試みたり、スタートさせたりしている。

さまざまな分野で成果を上げた取り組みは、いずれも町民と行政が共に知恵を出し合い、地道な努力を重ね、築いてきたものばかり。

過疎のどん底からはい上がり、苦闘の末に築き上げた「人かがやき夢ひろがる美しき藤沢」。誇りある古里は、自治の中に自治を求めた真の住民自治によって創られた。

アイデアあふれるユニークな施策は、言い換えれば、地域の実情に沿う取り組みであり、中山間地という条件不利地域に理想郷を創り上げた。

およそ半世紀前に建てられた木造の町役場庁舎は老朽化が進み、フロアも階段も歩けばギンギンときしむ。周辺には、藤沢町民病院をはじめとする近代的な鉄筋コンクリート造

例えば、今、全国の自治体が推進する「協働」は、自治会が発足した40年近くも前から行われてきた。縦割り行政の壁を破ってきた。「保健・福祉・医療の連携」や「幼

わせて、藤沢を訪れる人へのおもてなしの心が込められている。「一関市との合併を前に、古里への誇りをあらためて認識することができた。これからは揺るぎない活動を展開していきたい」と決意を新たにしたい。

山田博町長は「今回の受賞は、70年代前半から40年にもわたり取り組んできた住民自治の集大成。町民一人一人の地域を思う古里愛と自治会活動の成熟、そして深化の結晶と言える。合併しても藤沢の自治会活動は永遠に不滅であり、受賞を機にますます頑張つてほしい」とたたえた。

藤沢町として最後の大臣表彰に町は沸いている。

古くは木造庁舎は、佐藤守前町長と山田博町長が貫いてきた「住民本位のまちづくり」の象徴とも言える。合併によって、藤沢町という器はなくなる。だが、中身は一関市という大きな器の中で、まだまだ成熟し、進化を遂げるだろう。文化も、祭りも、風景も、この町に生きる人たちが、努力を重ねて築いてきた「地域資源」。そんな町民こそ、藤沢が誇る一番の「宝」だ。だから、人も、街も、思い出も、みんな未来へ連れて行く。まちづくりの力の源、それはまぎれもなく「住民力」。これまでも、これからも。



老朽化が進む町役場は、住民本位のまちづくりを進めてきた象徴



1) 10万本の花咲く町を目指した「ビューティフル藤沢整備事業」。自然豊かな農村空間を美しい花々で飾った。写真は04年花いっぱい功労者表彰を受賞した七日町自治会／2) 快適な生活環境づくりに一役買う「クリーンアップー斉清掃」。写真は第1区自治会

ここには、紡いだ物語の数だけ大切にしたいものがある

誰にでも思い出の場所がある。忘れられない風景がある。ずっと守りたい、ずっと大切にしたい、ずっと残したい、そう思うのは、そこにドラマや思いがあるからだ。それは、どんなに時代が変わろうとも、決して朽ちることはない。なぜなら、その物語を紡いでいるのは、ここに生きる私たち自身なのだから。古里への思いがある限り、いつの時代も、地域は成熟し続ける。

平泉が世界遺産に登録されたのも、奥州藤原氏の歴史の物語があり、それを現代にまで継承してきた地域住民のドラマや思いがあったからだ。

藤沢のまちづくりにはドラマがある。いずれも自分たちで知恵を出し、汗をかき、築き上げてきたものばかりで、そこには他にない無二のストーリーが宿っている。だから美しい、そして優しい。ずっと大切にしたいと思う。

過疎からの脱却を目指し、住民は地域の課題と正面から向き合ってきた。地域コミュニティの再生、環境整備や自主防災など、それぞれ地域に合った解決方法を求め、実践してきた。花壇にも、道路にも、野山にさえも誰かの物語がある。愛や真心が込められている。

住民自治という選択は、藤沢にさまざまな物語を宿し、愛してやまないたくさんの「宝」を創った。自らの意志で創り上げたものは愛

おいしい。ここにも、あそこにも、町中に「宝」があふれている。

住民自治は過疎という絶望を未来という希望に変えた。今、藤沢には沸き上がる夢や希望をかなえる場所がある。心まで癒やしてくれる安息の場所がある。無限の可能性を秘めた古里は、全てこの町に生きる人たちの手によって創られたものだ。

住民自治。それは藤沢不変の美学。

物語は語り継がれる。親から子へ、子から孫へ、地域から地域へと。互いの物語を共有することは、古里への愛着を一層深め、理解し合う第一歩だ。これからも、ここで、物語を紡いでいこう。合併しても古里は変わらない。ずっと。



過疎再生の突破口
住民自治は
藤沢の不変の美学

1

ずっと

誰にでもずっと守りたいものがあるように、藤沢には、愛してやまないたくさんの「宝」がある。それらを創り、築いてきたのは住民自治。過疎という絶望を未来という希望へ変えた住民自治は永遠である。



3) 協働のまちづくりと住民自治に理解を深める「地域づくりフォーラム」／4) 自治会対抗で競う「町民総参加体育祭」。世代を超えて多くの人が参加している／5) 町役場前に立つ「希望のケルン」は藤沢のシンボル。全国から多くの人が、住民自治の聖地を訪れている

住民自治のエキスパート
藤沢町自治会協議会長

小野寺恒雄さん

【ずっとの美学】

これからも
共に生きる
だから
おせっかいを

PROFILE 1945年藤沢町生まれ。77年藤沢町役場入庁。生涯学習課長補佐、自治振興課長補佐などを歴任し、96年シルバーセンター所長。02年退職。同年第39区自治会長。04年藤沢町自治会協議会長。一関市・藤沢町合併協議会委員。NPO法人藤沢町ボランティアセンター理事長。保呂羽字上野平在住、65歳

Interview Onodera Tsuneo

藤沢の「ずっと」

課題解決のカギは地域にある
今こそ必要な「おせっかい」

藤沢町は、自治会が誕生し、住民自治を推進するようになって変わった。民と官の距離が縮まったことで、それまで要望するだけの一方通行だった関係が双方向になり、共に担う新たな「自治」が生まれた。

住民が直接政策に参加できる仕組みであれば、真剣に行政と向き合うようになる。結果に対する責任も引き受けざるを得ない。それが「協働」だ。合併後もこの仕組みをなくしてはならないと思う。

少子高齢化など地方の自治体が抱える課題は、放っておけば深刻化するだけである。課題解決のカギは地域の中にあり、みんなでそれを探ることがコミュニティ再生の第一歩だ。同時に、少子高齢化が進み、核家族が増加する中で、地域のつながりが希薄になっている。他人の子をしかったり、よその家の

高齢者を世話したりする機会も減っている。これではダメだ。人あつての自治会、人あつての地域、人あつての自治体なのである。

集落の機能を維持できるかどうかは人口ではない。人と人とのつながりである。昭和の時代には当たり前だった「おせっかい」が今こそ、必要な時を迎えている。震災は、地域コミュニティの大切さを再認識する機会になった。顔見知りであることはもちろん、互いに信頼できる関係がなければ、災害時に命を守ることなどできない。目配り、気配りは言うまでもなく積極的におせっかいを焼ける関係を築こう。

地域は、そこに住む人たちが学び合い、支え合い、助け合いながら共に暮らすことで集落としての機能を維持できる。私たちはずっと一緒だ。それは合併しても変わらない。

無条件に心が弾む
誇り高き
地域文化の創造

2

もつと

藤沢の文化には夢がある。それは創造することに喜びを感じているから。地域にこだわった100%藤沢産の文化は全国に誇れる古里の宝だ。もつと、伝えたい、もつと広げたい。



たゆまぬ創造の連続が 藤沢文化を燃え上がらせる

縄文の炎が、人々の笑顔を赤く染めている。ここは藤沢野焼祭の会場。魂を込めた作品を持ち込む人、穴窯に夜通しまきをくべる人、イベントを仕切る人、裏方で支える人、郷土料理でもてなす人、ステージで踊る人、それをじっくり眺める人。多くの町民が主体的に関わり、盛り上げる。たくさんの情熱の炎が燃えている。

藤沢が誇る文化は、野焼祭も、町民劇場も、マーチングも、ソフトボールも全て町民がまちの隆盛を願い、英知を結集して人為的に創り上げてきたものばかりだ。

藤沢の文化はすなわち「人」である。夢を追う人、挑戦し続ける人、あきらめない人。ここには魅力的な人材があふれている。現状にとどまることを良しとせず、常に新しいものを目指し、創造する風土がある。

何も無い荒野にも、創造力を巡らせ、知恵をしぼれば、花は咲き誇るのだ。

何かを創るとき、出来上がりの楽しみはもちろんだが、創り上げる過程もまた面白い。

工夫を重ね、試行錯誤を繰り返す。失敗さえも成功への糧にする。うまくいくまで何度でも挑戦するから、苦労した分だけ喜びは大きい。それが仲間と共に築いたものならなおさらだ。藤沢には、子どものような好奇心や創造力を持った人々がたくさんいる。一緒に夢を追い、励まし、支えてくれる、優しくて心強い人々がたくさんいる。

それぞれがまちの主演であり、脇役である。それぞれが表方であり裏方である。みんなが出演者であり観客である。主体的に関わるからこそ地域づくりは面白い。絶えず創造するからこそ大きな価値や魅力が生まれる。

誰のものでもない、かけがえのない古里。まちの形は変わっても、大事なものは人である。だからこの先も、決して立ち止まることはない。創造は藤沢の文化だ。創造の連続が伝統を築いてきた。古里への愛情がある限り、藤沢の文化は熱く、激しく燃え盛るだろう。もつと。



1) 野焼祭はお盆の季節に行われる藤沢の夏の風物詩。ここでは「創る」ことが文化／2) 一つ一つの作品に命が吹き込まれていく／3) 藤沢野焼祭のシンボル「縄文の炎」。巨大な火柱は迫力満点。炎は集う人の心を熱くする／4) 大小千点以上の作品が穴窯で豪快に焼き上げられる／5) 未来を奏でる藤沢のマーチング(藤沢小)／6) 新春恒例の「子ども郷土芸能発表会」。古里の技と誇りを継ぎ、紡ぐ／7) 100%藤沢産の町民劇場もまた、古里が誇る地域文化(森に消えた十字架)



地域文化創造のエキスパート
藤沢野焼祭実行委員長

皆川洋一さん

【もつとの美学】

藤沢では
「創る」が文化
だから
おもしろい

PROFILE 1948年藤沢町生まれ。「深萱の昔とうふ工房」代表。藤沢町観光協会会長、藤沢野焼祭実行委員会実行委員長。ふじさわ元気再生推進協議会会長。藤沢町民劇場では第1回から劇団長を務めたほか、第1回から11回まで原作・脚本を手掛けた。黄海字西深萱在住、63歳

Interview Minakawa Youichi

藤沢野焼祭は今夏で36回目を迎えた。大震災の影響があつたにもかかわらず、無事に開催できたことに感謝している。

野焼祭は36年続いているが、100年、200年続いている。日本伝統の祭りに共通するのはマンネリズム(不変の型)。変わらないものだからこそ続いていくのだ。

不変の中にあつても、祭りを盛り上げる要素はどんどん増やしていきたい。例えば太鼓は、縄文太鼓や地元の二日町祭神太鼓だけでなく、新しい団体が出てきてほしい。作品を作る園児や小学生の中から、プロの野焼師が出てきても面白い。縄文時代の手法で焼くという基本姿勢は変わらないが、周囲のデコレーションは進化させていかなければならないと思っている。

野焼祭にしても、町民劇

藤沢の【もつと】
「自ら創る」が藤沢の流儀
価値を守り、進化に挑む

場にしても、「見る」だけでなく企画や運営にも携わるのが藤沢の流儀。自ら参加して新しい価値を創造するのがこのまちの文化。大切なことは、さまざまな活動に自分自身がどのように関わっていくかだ。

昔は、結婚式や葬式などは親類や地域の人たちが取り仕切った。その中で自然に地域を担う人材が育った。今は全てがプロ任せ。人材は育ちにくい環境にある。合併して規模が大きくなれば、祭りや盆踊りなど集落単位の活動がますます重要になってくる。まずは家族の和、次は隣近所の輪、そして地域の環と活動範囲を広げていく仕組みが必要だ。そういう中で人材は育つのだ。

古里藤沢がこの先も創造性に満ちた、個性あふれるまちづくりに挑み続ける限り、藤沢の「宝の山」はもつともつと光り輝くはずだ。

安心と幸せを
自ら手に入れる
私たちの選択



きつと

東日本大震災の年に合併する藤沢町。「自ら安心を手に入れる」が藤沢流。復興の合言葉は「再生から創生」。幸せはいつでも安心の上になり立っている。



1)「春の演習」と呼ばれる町消防団総合演習。火点に向かって勢よく放水する第4分団第3部。本番さながらの動きだ/2)水防訓練で土のうを積む婦人消防協力隊。同隊は後方支援の域を超えた多彩な活動で町の防災活動を強力に支えている/3)震災以降、自主防災組織も活発な訓練を繰り返している。第24区自治会は今年、レスキュー隊を結成。倒壊建物から負傷者を救出する訓練を実施



情は藤沢の財産。その温かさは日々の復興支援活動にも現れている。

東日本大震災は、私たちの暮らしだけでなく価値観までも変えた。日本中がリスタートを迫られている。元に戻すことが「復元」なら、「復興」は未来を視野に入れたまちづくり。つまり、「再生」ではなく「創生」である。その要は言うまでもなく住民力。想定外を想定内に変えることができるのは、ほかでもない私たち自身だ。

人生は自分で切り開くもの。まちづくりも同じだ。愛する人を、大切な古里を守るために、自ら安心を手に入れ、自ら幸せをつかもう。藤沢でならでできる、私たちにならでできる、きつと。



*町内の自治会、有志、団体は、甚大な被害を受けた沿岸被災地へ出向き、支援活動を連続的に行っている/4) 気仙沼市本吉地域へ「夏物」衣料を提供する町自治会協議会と町女性組織連絡会議/5) 岩手サファリパークの出張「サル劇場」は、被災者の心を癒やす藤沢ならではの支援活動だ/6) 避難所へ出向いての炊き出しは、心と心の触れ合いでもある

藤沢の「きつと」 自分の幸せも地域の幸せも 心をつなぐ絆から

3・11の震災以降、沿岸被災地へ出掛け、支援活動を続けている。

初めは「途方に暮れているだろう」と同情の気持ちで行った。しかし、被災地の皆さんは強かった。私の方が励まされた。心が折れそうになっても、自分に「大丈夫だ」と言い聞かせたり、応援してくれる人に応えようとしたりすることで、踏ん張っていた。その姿を見て、もともとずっと支援したくなかった。これが本当の絆だと思う。モノではなく、気持ちを持って心で受け取る。いざというときの瞬間も、これからずっとという永遠も、この絆でつながっていくのだと思う。

現在の行政は、市町村合併に代表されるとおり、外へ外へと広がっている。国も地方も財政は厳しく、効率性や経済性を考えれば仕方ない。合併によって枠組みが変わっても、私たちがここで生

きていくことに変わりはない。大事なことは、自ら行動し、努力して、地域をつくること。他力本願で幸せはつかめない。

小さい頃、海藻を取って売ったり、家の手伝いをしてりして小遣いを稼ぎ、そのお金で紙芝居を見た。自分が欲しいものは、努力しなければ手に入れないことを学んだ。それが「生きる力」だと思う。

困難や障害は、小さいうちに乗り越えないと、どんどん大きくなる。行政任せにせず、自分の力で、地域力で小さいうちに乗り越えていこう。そのためには、人と人をつなぐ「絆」が必要だ。前に進んで行く「生きる力」が必要だ。自分の幸せも、地域の幸せも、努力でつかむ時代。まず家庭、次に地域と、みんなで一歩ずつその輪を広げていこう。きつと、できる私たちなら。

Interview Chiba Tokiko



消防・防災のエキスパート
藤沢町婦人消防協力隊長

千葉とき子さん

【きつとの美学】

努力して
自分でつかむ
だから
幸せになる

PROFILE 1950年気仙沼市生まれ。75年に結婚、藤沢町へ嫁ぐ。94年藤沢町婦人消防協力隊副隊長、97年隊長。01年岩手県婦人消防連絡協議会東磐井地区支部長。06年岩手県婦人消防連絡協議会会長。99年藤沢町議会議員に初当選、現在3期目。ほかにも藤沢町体育協会副会長、藤沢町女性組織連絡協議会会長など役職多数。大籠字千松在住、61歳。

独自の産業文化圏「中東北」の創造 これが新生一関市のビジョンだ

一関市長 勝部 修

私が一関市長に就任したのは2009年。先の合併からちょうど丸4年たった頃だ。市政のかじ取り役を担い、感じたことは「一体感の醸成」というスローガンが、まだ本物になっていないということだった。一関市は面積が広く、人も、産業も、文化も、それぞれに特色がある。そういう魅力をもっと生かしたいと思いつつ、これまで必死に取り組んできた。

この地域は、多彩な産業があり、文化的な層の厚さが特徴だ。中でも奥州藤原氏、あるいは安倍一族の時代から続く平泉文化は私たちの宝だ。今でこそ行政区域の線引きはあるが、昔はこの地方一体が繁栄を極めた。私は両磬の一つだと考えている。この地域には、800年前のDNAがしっかりと受け継がれている。

合併によって、藤沢町を仲間に迎えることは、本当にうれしい。藤沢といえば住民自治。昔から活発な自治会活動を行っている。そして藤沢町民病院。きめ細かい地域包括ケアは、ほかではまねできない素晴らしいシステムだ。地域医療の常識を変えてしまうほどの大きな価値がある。藤沢野焼祭は、県南広域振興局長時代から参加している大好きな祭りだ。歴史的には比較的新しい祭りだが、町民総参加で祭りを創る姿にコミュニティーの絆の強さを感じる。

一関地方は、それぞれが地域独自の価値、誇りや伝統を大切にしてきた。合併を機にそれらを省力化するとか、合理化するとか、集約化するとか、そういうことは考えていない。むしろ、今までやってきたことに自信と誇りを持ち、子孫の代までずっとつないでいく気概を持ち続けてほしい。

地域づくりは「人」づくりだ。若者がどんどん流出し、高齢化や過疎化が進む中で、ここに残りたい、ここで働きたい若者を大事にしていきたい。そのためには地域で育み、支え、雇用することが大切で、地域の総合力「地域力」の向上が重要になる。地域力は画一的なものではなく、それぞれの地域にそれぞれのやり方があるはずだ。しっかりとした地域力があれば、少々人口が減っても、たくましく生き抜

くことができる。

合併すれば、一関市は盛岡市に次ぐ県内2番目の都市になる。地理的には盛岡市と仙台市、あるいは青森県と福島県の中間に位置し、産業的にも関東自動車とセントラル自動車の中間地点で、自動車部品の生産拠点として大きな工場が集約されつつある。

私はこの地域一帯を、北東北でも、南東北でもない「中東北」として発展させたい。市町村や都道府県の垣根を越えて、古くから交流のある宮城県北地域などと共に、独自の産業圏、文化圏を創造し、飛躍させたい。多くの企業が集積される中で、地域振興のあり方も行政エリアではなく、通勤エリアとしてとらえなければならない。陸前高田市も、気仙沼市も、登米市も、栗原市も、奥州市も通勤エリアになり得る。共に産業振興を目指すパートナーといえるのだ。

社会環境が変化する中で、行政がどんなサービスを提供すればベストかを考えると、これまでの物差しではうまくいかない。物差しの目盛りをいかに細かくするかではなく、同じ長さの物差しの使い方を変えていくことが重要だ。住民の側に立ったつもりで物事を眺める「住民視点」ではなく、立ち位置を住民と同じ場所に置く「住民起点」で考えることが大事だ。そのためには現場を知らなければならない。宮澤賢治の雨ニモマケズには、東に病気の子どもあれば「行って」看病してやり、西に疲れた母あれば「行って」その稲の束を負い、とある。徹底した現場主義が貫かれている。私たちがそういう姿勢で臨まなければならないし、一関にはそういう素地があると思っている。

私には3つの行動基準がある。県庁時代から若手教育や講演などで伝えてきた言葉だ。「すぐやる」(行動力)、「かならずやる」(責任感)、「できるまでやる」(持続力)。この言葉をまずは私自身がしっかり肝に銘じ、隣接地域とのつながりを大事にしながら、新しい産業文化圏「中東北」エリアの創造に力を注いでいきたい。

PROFILE 1950年一関市千厩町生まれ。亜細亜大法学部卒。74年岩手県庁入庁。総合雇用対策局長、総合政策室長、県南広域振興局長などを歴任し、09年10月の市長選で初当選。趣味は20年前に始めた石集め。両親は同市室根町と大東町の出身で現在実家は東山町にある。一関市在住、61歳

目指すは
できるまでやる
すぐやる、かならずやる、
中東北の拠点都市だ



悠久の流れと共に生きる

水害常襲地の克服へ 治水対策事業が始まる

国土交通省岩手河川事務所は本年度から、北上川と砂鉄川の合流点から宮城県境までの「北上川上流狭隘地区」(16^キ、80世帯)を対象に、治水対策事業を行う。

一関遊水地下流から宮城県境までの北上川両岸は急峻な山々に挟まれ、川幅が狭い。このため、同地域はたびたび大きな洪水被害を受けてきた。

同省は、一関市狐禅寺の千歳橋付近から宮城県境までの26^キ区間で06年度から治水事業に着手。第1期は千歳橋から砂鉄川合流点までの10^キ区間で行われ、工事は10年度に完了した。

藤沢町と一関市は、砂鉄川合流点から宮城県境までの残り16^キ区間を第2期として国に要望。一般河川改修事業として継続されることになった。

工事は本町黄海の小日形地区を皮切りに順次進められる計画だ。小日形地区は間もなく用地の調査測量や補償協議に入り、

一関地方は、古くから「磐井」と呼ばれ、北上川流域に発展した。川を挟んで東側を「東磐井」、西側を「西磐井」として、政治や文化を共有してきた。

北上川はこの地に多くの恵みと潤いをもたらしたが、台風や長雨の季節にはたびたび洪水被害を引き起こした。明治以降は水害対策の一環として治水・利水事業が進められ、昭和になると北上大橋などの橋りようが整備された。左岸と右岸は舟がなくとも往来ができるようになり、東西磐井は活発に交流するようになった。

本町では1969年、車が通るたびに板がきしみ、揺れ動いた「つり橋」に変わり、長さ210^{メートル}、幅6^{メートル}の永久橋「北上川橋」が七日町地区に完成。92年には、未来への架け橋として曲田地区に「花藤橋」が架かった。花藤橋は北上川に架かる岩手県最南端の橋であり、西磐井をはじめ、宮城県との往来も一層活発になった。

源流と本流をつなぐ人 新たな歴史を創る

北上川は多様な交流の舞台だ。上流と下流を縦系に、左岸と右岸を横系に考えてみる。

縦系は「一関市と周辺自治体」、あるいは「岩手と宮城」の交流な

12年度に堤防(輪中堤)工事着手、13年度中の完成を目指す。

黄海字小日形の農業佐々木栄一さんは「北上川からたくさんの恩恵を受ける一方で、たびたび洪水被害に遭うなど、良いことも悪いことも川と共にあった。治水工事で安心を手に入れられたら言うことはない」と喜ぶ。

磐井の歴史と共に歩む 東北随一の大河

北上川は、岩手県と宮城県を流れる一級河川で北上川水系の本流である。流路延長249^{キロメートル}、流域面積10150平方^{キロメートル}は東北最大。全国でも4番目の大河である。緩やかな勾配が特徴で悠々と流れるその様は風光明媚だ。

平安時代の安倍氏や奥州藤原氏の頃には、舟運の大動脈として交易などに利用され、藩政時代は盛岡藩と仙台藩の回米輸送路として重要な役割を担った。最も盛んだった江戸時代には、北上川流域で取れた米は江戸や大阪で売られ、各藩の財政を支えた。

ど「外なる交流」に例えられる。横系は、東西磐井の交流、つまり「内なる交流」に例えられる。この縦系と横系をいかにリンクさせられるかが、まちづくりのカギを握る。なぜなら、まちづくりは人づくり。人づくりは、人と人とのつながりや交流によって生まれるものだからだ。新しい交流が新しい世界を創り、新しい文化を生み出していく。

北上川は本流だ。そこには、たくさんの支流が流れ込んでいる。湧き水(人)が支流(地域)をつくり、支流が本流(市)をつくる。水から川へ、川から河へと発展すること、強い自治体がつくられる。どんなに大きい河も源流は「湧き水」。つまり、私たち一人一人なのである。湧き水(人)が美しければ、本流(市)は美しくなる。湧き水(人)に生命力があれば、支流(地域)は活性化し、本流(市)は豊かな水をたたえて流れ続けるだろう。かつて両磐を東西に隔ててきた北上川は間もなく、市の中央部を流れる「両磐をつなぐ川」になる。あの向こう岸も、私たちが愛する古里になるのだ。

2011年9月26日、東西磐井が奏でるハーモニーは、大いなる大地で一つになり、ゆつくりと流れ始める。悠久の流れの中で、新しい歴史を切り開くのは、両磐に生きる私たち自身だ。

向こう岸も古里になる

国民年金

シリーズ平成年金事情—vol. 60

国民年金のあれこれを4コマ漫画で紹介。9月は「老後の生活」です。

② 年金のメリットは?

老後の生活費はどうするつもり?



POINT

老後の生活

国民年金の老齢基礎年金は、年額788,900円(※満額の場合、平成23年度)です。老後に13万円の定期収入を確保するのはご覧のように大変です。でも、40年間国民年金保険料を納めておけば65歳以降は基礎年金だけでも上記の金額を生涯もらい続けられます。国民年金1号被保険者は自分で保険料を納めますが、仕事を辞めて所得のない場合などは『保険料免除』を申請しましょう。

町民課住民福祉係 ☎ 63-2111 内線 258

藤沢幼・保幼年消防クラブ
県幼少年婦人防火委員長表彰を受賞

藤沢幼稚園・保育園幼年消防クラブ(クラブ員70人)は、2011年度県幼少年婦人防火委員長表彰を受賞しました。

伝達式は9月1日、同園で行われ、クラブ員、園職員、消防本部職員や来賓が出席。一関消防本部の及川実消防次長からクラブ員代表に賞状が手渡されました。及川次長は「表彰は皆さんの活動が認められたもの。これからも先生の言うことを聞いて、防火や防災に頑張ってください」とあいさつしました。来賓の沼倉憲二副町長は「家に帰ったら、表彰されたことをお父さんやお母さんに伝えて、みんなで火事に注意してください」と呼びかけました。

そろいの法被を着たクラブ員たちは元気に声をそろえて「防火の誓い」を唱和、火の用心に決意を新たにしていました。

同クラブは両園の園児たちで30年ほど前に結成されました。火災予防運動期間の防火パレードや毎月の避難訓練など、定期的な活動を通して地域の防火・防災の意識高揚に一役買っています。

千田恵子園長は「29年間の活動が認められての表彰。長年、活動を支えてくれた多くの皆さんに感謝します。3月の震災でも、子どもたちは訓練どおりに行動し、安全を確保しました。これからも防火・防災の意識を高める活動を続けていきたい」と話していました。



及川次長から賞状を受け取る園児の幼年消防クラブの代表

被災地支援「東儀秀樹コンサート」開催
Jスタッフ協議会

Jスタッフ協議会(及川隆司会長)は、NPO法人「世界遺産コンサート」の協力を得て、東日本大震災の被災地支援として「東儀秀樹コンサート」を開催します。

チケットは、前売り3,500円、当日4,000円。全席指定で未就学児は入場できません。詳しくは、藤沢町文化交流センター ☎ 63-5515 まで問い合わせてください。



Jスタッフ協議会事務局(文化交流センター内) ☎ 63-5515

町明るい選挙啓発標語ポスターコンクール

標語は鈴木里奈さん(5年)と伊藤遥香さん(2年)
ポスターは三浦優香さん(新沼小6年)が最優秀賞

町選挙管理委員会などが主催する「明るい選挙啓発標語・ポスターコンクール」の審査会は9月1日、町役場で行われました。

応募数は標語が小学校57点、中学校235点で、ポスターが小学校42点。審査の結果、標語の最優秀賞は鈴木里奈さん(黄海小5年)の「投票は 幸せな社会をつくる 第一歩」と伊藤遥香さん(藤沢中2年)の「一票で つくろう輝く 夢・未来」に、ポスターの最優秀賞は三浦優香さん(新沼小6年)に決まりました。結果は次のとおり(敬称略)。

◆標語

<小学生の部> ●最優秀賞=鈴木里奈(黄海5年) ●優秀賞=千田日奈子(新沼5年) ●佳作=千葉捺未(黄海5年) 千葉春輝(同6年)

<中学生の部> ●最優秀賞=伊藤遥香(藤沢2年) ●優秀賞=皆川直雄(同1年) ●佳作=菊地彩奈(同2年) 千葉香澄(同3年) 岩淵伶奈(同3年) 千葉梨佳(同3年)

◆ポスター

<小学生の部>

●最優秀賞=三浦優香(新沼6年) ●優秀賞=伊藤詩穂(同5年) 千葉奈々子(黄海6年)

●佳作=伊東尚哉(藤沢6年) 時田翠(新沼5年) 千葉遥菜(黄海6年)

ポスター最優秀賞の三浦優香さんの作品

9月10日から18日は「自殺予防週間」
大切な命をみんなで「生きるため」に支え合いましょう

9月10日は世界自殺予防デーです。これに合わせ、9月10日から一週間は「自殺予防週間」です。

日本の自殺者数は、98年以降連続して3万人を超えています。「心のケア」は国全体の大きな課題です。人の心は晴れたり曇ったりを繰り返します。一人で抱え込まないで、誰かに話してみませんか。周りの人はSOSのサインに気付いてあげましょう。

かだつてみっぺし隊

悩んでいる人に「気づき」「声をかけ」「話を聞いて」「必要な支援につなげ」「見守る」傾聴ボランティアです。気軽に声をかけてください。詳しくは保健センターまで。



保健センター ☎ 63-5304

FMX 全日本選手権
華麗なジャンプに大歓声

GOBIG主催の「フリースタイルモトクロス(FMX)全日本選手権第1戦」は8月14日、藤沢スポーツランドで開かれ、出場したライダーたちが多彩なジャンプアクションを披露しました。

FMXは、モトクロスから派生し、90年代に生まれたエクストリームスポーツの一つ。全日本選手権でライダーは、ジャンプ台のあるコースを走ってジャンプの「トリック」の難易度、完成度、獨創性などを競います。

今年は3月11日に発生した東日本大震災の影響で第1戦、2戦が中止になったため、藤沢での大会が実質の開幕戦になりました。選手たちは空中での逆立ちや宙返りなどウルトラC級の技を次々に披露し、炎天下のスタンドに詰めかけた観衆を沸かせました。

藤沢での同選手権は昨年に続き2回目。今年は本町の雇用促進住宅に入居している沿岸被災地の皆さんが無料で招待されました。

企画・運営を担当した鈴木大助選手と佐藤大地実行委員長は「藤沢はコースの土質や設定が最高。お客さんも前回より多くて盛り上がりました。来年もぜひ藤沢で選手権を開催したい」と話していました。



多彩なジャンプアクションでスタンドを沸かせた「FMX全日本選手権」

Picture

ぼくとわたしの絵画展

Monthly Hot Communication



千葉 彩未ちゃん
ちば・あやみ



作品 おまつりでおどったよ



千田 菜摘ちゃん
ちだ・なつみ



作品 おうちではなびをしました



山口 雛ちゃん
やまぐち・ひな



作品 おまつりにいったよ



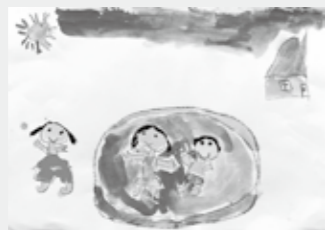
佐藤 真心くん
さとう・まなか



作品 はなびをみてきました



三浦 真鈴ちゃん
みうら・まりん



作品 おうちでプールあそび



千葉 和也くん
ちば・かずや



作品 かめんライダーオーズをみてきたよ



池田 冬真くん
いけだ・かずあき



作品 おうちでDVDみているところ



菅野 汐那ちゃん
かんの・ゆうな



作品 せんこうはなびをしたよ



佐藤 聖哉くん
さとう・せいや



作品 むしとりしたよ



小野寺千幸ちゃん
おのでら・ちゆき



作品 ソフトクリームたべたよ



及川 飛舞くん
おいかわ・あすま



作品 むしとりしているところ

9月は
藤沢幼稚園・保育園のお友達の作品
テーマは「楽しかった夏の思い出」

Books

9月のおすすめ図書を紹介

Monthly Hot Communication

中高生向け

PICKUP_03 14歳からの社会学 これからの社会を生きる君に



世の中は日々変化しています。先が読めない社会をどう生き、どう乗り越えて行くべきか。現実を受け止め、これからの社会を生き抜く上で大切なことが書かれている一冊です。

宮台真司 著/世界文化社

幼児向け

PICKUP_01 にじになったきつね(紙芝居)



きつねのゴロザエモンはお地藏さんに化けてお供え物をパクリ! そのあとやってきたおじいさんの家で、虹に化けるのです。新しい紙芝居がたくさん入ったのでご利用ください。

川田百合子 脚本/藤田勝治 絵/童心社

一般向け

PICKUP_04 凜と咲く なでしこジャパン 30年目の歓喜と挑戦



女子サッカー世界一という大偉業を成し遂げたなでしこジャパン。日本中が歓喜したその裏側で21人の大和撫子たちはどんな思いでプレーしていたのか。ピッチになでしこの花が咲くまでを追いかけた秘話です。

日比野真理 著/KKベストセラーズ

小学生向け

PICKUP_02 つづきの図書館



「青田早苗ちゃんのつづきがしりたいんじや!」。読者が物語のつづきを気にするように、物語の登場人物たちも、読者のつづきが気になっているのです。田舎の図書館で起こった不思議なできごと。

柏葉幸子 作/山本容子 絵/講談社

Library Topics

図書館の役割を体験して学ぶ

8月23日から25日までの3日間、藤沢中学校の生徒2人が藤沢町図書館で職場体験をしました。

生徒は地域での図書館の役割について学んだ上で、図書館のいろいろな作業を体験しました。最終日には、自分たちで選んだ絵本と紙芝居を学童保育所の子どもたちの前で読み聞かせました。



読み聞かせの様子

INFORMATION

●読書推進標語&手づくり絵本・紙芝居を募集!

岩手県読書推進運動協議会では、「読書週間」の取り組みの一つとして推進標語と手づくり絵本・手づくり紙芝居を募集します。募集要項・様式は藤沢町図書館にもありますので問い合わせください。

応募締め切り

読書推進標語…10月14日(金)〈必着〉

手づくり絵本・紙芝居…10月21日(金)〈必着〉

●おはなし会

9月はお休みします。

●休館のお知らせ

9月26日から藤沢町図書館は一関市立藤沢図書館になります。開館時間や休館日に変わりはありませんが、図書館システムの変更と蔵書の点検・整理のため、10月11日(金)から15日(火)まで休館します。詳しくは、9月配布のチラシをご覧ください。ご不便をおかけしますがよろしくお願いします。



This Month
Pick Up
Hot
Communication

Books

Picture

Health

Young

Child

Welfare

Column

「洋一つあん長い間お世話さまでした」なんだよ、あらたまって。嫁に行くのか「男ですよ、男の私が嫁に行くわけないでしょう」「お姉キヤラかなんかにイメチェンして行くのか」と「なりませんよ。気持ち悪い」「今はやりだよ」「そうでなく転勤。遠くに転勤することになった」「遠くか、千厩？」「花泉？」「何言ってるんですか、全国講演してる洋一つあんの遠いところって、そんなもんですか」「そう北は千厩、南は花泉まで全国飛び回ったな」「何ばか言ってるんです。外国です、外国に飛ばされたんです。洋一さんの大嫌いな外国に」「俺外国嫌ってないよ。俺が嫌いなのは外国人にこびへつらうやつと、日本語もろくに駆使できないくせに、きしやしやつて英語もどきをしゃべるやつ。『畳の上で死にたい』を正しく翻訳できないやつ、もつと言おうか」「わかりました。とにかく外国に転勤なんていじめたいなもんです」「別にいじめでないだろう」「いや、いじ

めです」「そう、そういう時は『倒されし竹は再び起るとも倒せし雪は跡かたもなく』と口ずさむの」「倒されし竹は：へえ、いいですね。しかし、会社というか経営者はもうけ主義ですね。血も涙もないですね」「おいおい俺も経営者だぞ」「でも洋一つあん、もうけ主義でないでしよう」「あのね、俺ももうけなきやいけなないの、ただもうけからないだけなの」「ねね、もうけ主義者、金銭欲の強い人皮肉ったことわざってあるんですか」「そういうやつね。こんなのどうだ『欲深き人の心と降る雪は積もるにつけ道を忘れる』『欲深き人の心……いいですね』『ちゃんとメモしとけよ、おまえ頭悪いから』『あつ、いじめです。日本でのラストいじめです』『何が。まつ、元気でやれよ。ラストビール飲むか』『いいですね。しかし洋一つあん、そんなことわざ、どこで覚えるんです。本か何かですか』『本なんかこんな気の利いたこと書いてないよ。落語。俺の知識の大

半は落語からきてるよ」「へえ、落語で。落語にそういう話出てくるんですか」「落語の本題でなく、枕といつて冒頭に落語家がいろんなことを言うんだが、それが本題より面白かったりするの」「落語ってためになるんですね」「そうだよ。学校の勉強より落語一つ聞いた方がためになるの。あつ、ところで俺浅草で落語やってるの。落語、学校の授業よりためになるの」「何回も言わなくてもいいです。かえって変です」「あつそう、つれない」「外国に落語のCD持って行くかな」「いい、それなら志ん生、円生がいい」「笑点に出てない人です。俺は町民劇場の役者によく円生の『淀五郎』を聞かせたな」「相手によつて中味変えるんですか」「そうだよ、何百もある中から選ぶ楽しみもあるの。とりあえず今晚一つ、饞別代わりにしやべろう」「急用思い出しました、洋一つあんいつまでもお元気で」「ああ、さようなら」



MINAKAWA YOUICHI

皆川洋一 みなかわ・よういち
1948年藤沢町生まれ。「深葦の昔とうふ工房」代表。「藤沢野焼祭実行委員会」実行委員長。藤沢町民劇場の前劇団長で第1回から11回まで原作・脚本を手がけた。好きな言葉は「天衣無縫」、自分の宝は「夢」。たくさんありすぎて一つや二つ一つでも挫折しないから。黄海岸西深葦在住、63歳



連載コラム

自分にとって何が大事か 出会う喜び、選ぶ楽しさ 「本題」が全てじゃない

9月7日の3歳6カ月健診でむし歯のなかった子どもたち



橋本 武くん 黄海岸上中山



佐藤理央ちゃん 藤沢字西風



及川瀨愛ちゃん 藤沢字葉山平



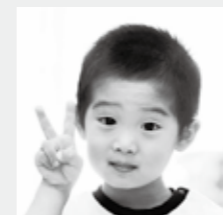
佐藤司真くん 藤沢字馬ノ舟



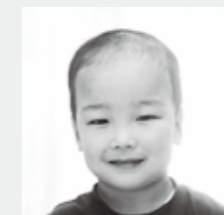
小野寺絵来くん 保呂羽字上野平



菅野佑月ちゃん 西口字西小戸沢



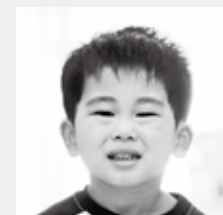
佐藤寛太くん 大籠字堂前



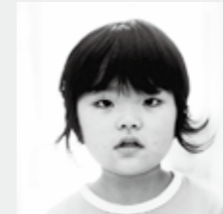
伊藤万葉くん 保呂羽字口舟



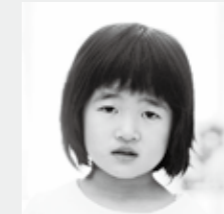
及川和幸くん 黄海岸八景下



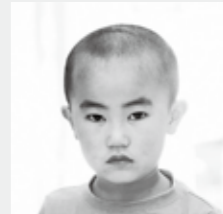
千葉星和くん 西口字西小戸沢



山口詩織ちゃん 保呂羽字宇道沢



熊谷遥ちゃん 藤沢字梅ヶ沢



佐藤雅紀くん 大籠字中鈴根

Welfare

こんにちはふじの実学園

Monthly Hot Communication

みんなが平等で幸せな社会を

以前、著名な人の話を聞いた時、「同じ目の高さで利用者に接するように…」と言われていました。実際の目の高さはもちろん、心の目も、接する人と平等でなければならないと話していたのだと思います。

福沢諭吉は「学問のすすめ」の中で「天は人の上に人を造らず 人の下に人を造らず」と話しています(本当の意味は、学問をしているか、していないかにより貧富の差がでる。だから学問をしなさいというのが彼の主張だったようです)。みんなが平等に暮らし、幸せな社会をつくれるように、ふじの実学園がそのきっかけをつくれたらいいと考えています。これからも地域の皆様のご支援をよろしく願います。

最後に、長い間、「広報ふじさわ」と「まちの総合情報誌ふじさわ」に「こんにちはふじの実学園」を掲載させていただいたことにお礼申し上げます。



●文・写真 ふじの実学園

●Information

「第28回ふじ実祭」を10月1日に開催します。多くの皆さんの来場をお待ちしています。

震災 労災保険と災害弔意金を同時に受給すること可能

一関労働基準監督署

労災保険は、労働者が仕事や通勤中に地震や津波で被災したり、死亡したりした場合、その遺族に遺族年金や一時金などを給付する制度です。各種給付金は、市町村が支給する災害弔意金の支給制限に含まれないので同時に受給することができます。

☎一関労働基準監督署 ☎ 23-4125

震災 震災で延長された国税税等の申告納付は9月30日

一関税務署、県税センター

3月11日に発生した東日本大震災により延長されていた「平成23年3月11日から9月30日までに来る所得確定申告や納付」などの期限は、一部の沿岸市町村を除いて9月30日⑩です。不明な点は、最寄りの税務署か県税窓口にお問い合わせください。

☎一関税務署 ☎ 23-4205 / 県南広域振興局一関県税センター ☎ 26-1420

震災 労働保険・一般拠出金の申告・納付期限9月30日

岩手労働局

東日本大震災の対策として7月11日⑪まで期限延長していた「労働保険・一般拠出金の申告・納付」の期限は9月30日⑩まで延長になりました。事業主の皆さんは、期日までに年度更新の手続きをしてください。詳しくは、岩手労働局か最寄りの労働基準監督署まで。

☎岩手労働局 ☎ 019-604-3003

建築 違反建築防止週間を進め安全な街づくりを目指そう

県南広域振興局一関土木センター

10月11日⑫から17日⑬までの一週間は「違反建築防止週間」です。安全で住みよい街づくりに向け、違反建築をなくすために実施されます。県は10月13日⑫に公開パトロールを実施します。建築工事中の人は確認表示板の掲示や設計図書の備えを確かめてください。

☎県南広域振興局土木部一関土木センター ☎ 26-1418

農業 日没が早まる秋は農作業の事故に注意してください

町産業振興課

県は「農作業 無事故でつなぐ明るい未来」をスローガンに、9月15日⑭から11月15日⑮まで「秋の農作業安全月間」を推進します。秋は日没が早まり、農作業事故の危険性が高まります。事故を防ぐために、安全な農作業に努めましょう。

☎産業振興課 ☎ 63-2111 内線 425

行政 農政事務所地域三課など奥州地域センターへ再編

県農政事務所総務課

岩手農政事務所地域第三課と一関統計・情報センターは9月1日、奥州地域センターに再編されました。奥州地域センターは、戸別所得補償制度など農業経営安定に係る業務、食の安全・安心確保に係る業務などを行います。

●再編後の名称と所在地
東北農政局奥州地域センター（奥州市水沢区東大通り2-2-23）

☎東北農政局奥州地域センター ☎ 0197-24-3010

法律 「法の日」に県司法書士会が「無料法律相談」を開催

岩手県司法書士会

10月1日は「法の日」です。岩手県司法書士会は、「無料法律相談」を実施します。相談には司法書士が応じます。

●日時・場所 ①10月1日⑬10:00～15:00 一関総合防災センター②10月3日⑭～7日⑮県内各司法書士事務所

●相談内容 不動産、商業登記手続の代理、訴訟書類の作成、簡易裁判所の手続き代理

●電話相談 電話による無料法律相談

町税等は期限内に納付を

9月は国民健康保険税(3期)、後期高齢者医療保険料(3期)、の納期です。期限は9月30日⑩です。忘れずに納めましょう。

藤沢町納税貯蓄組合連合会

談「相談110番」 ☎ 019-652-9350 (10月1日⑬だけ)

☎岩手県司法書士会 ☎ 019-622-3372

法律 県司法書士会などが成年後見相談会(無料)を実施

岩手県司法書士会

岩手県司法書士会と成年後見センター・リーガルサポート岩手支部は、下記のとおり「無料成年後見相談会」を実施します。

●日時 9月23日⑩10:00～15:00

●場所 岩手県司法書士会館

●電話相談 0120-823-815

☎岩手県司法書士会 ☎ 019-622-3372

エコ 廃品をリサイクルした再生品70点を抽選販売します

一関地区広域行政組合

一関清掃センターリサイクルプラザは、廃品を修理した再生品約70点を抽選の上、販売します。

●販売品目と価格
①家具(机・学習机・テーブル棚など)10,000円以下/②大人用自転車2,000円/③子ども用自転車1,000円/④その他(ベビーカー・収納ボックス・おもちゃなど)1,000円以下

●展示場所 一関清掃センターリサイクルプラザ展示コーナー

●展示・申し込み期間 10月1日⑬～28日⑮9:00～16:00

●抽選日時 10月31日⑰10:30～

●資格 藤沢町、一関市、平泉町在住の人で、11月15日⑮までに購入品を自ら搬出できる人

☎一関清掃センターリサイクルプラザ ☎ 21-2157

介護保険料は期限内に納付を

9月は介護保険料普通徴収第2期の納期です。納期限は9月30日⑩です。早めに納めましょう。納税は、便利で安心な口座振替をご利用ください。

一関地区広域行政組合

健康 50人未満の小規模事業所対象に健康相談を実施

岩手県一関地域産業保健センター

岩手県一関地域産業保健センターは、従業員50人未満の小規模事業所事業主や労働者を対象に、産業医による健康相談を実施します。下記の相談日のほか、電話やファクスでも随時相談に応じます。

●相談項目 ①健康診断結果に基づく事後指導②長時間労働者への医師による面談指導③労働者のメンタルヘルス④従業員の健康管理について

●10月の相談窓口開設日

月	日	曜	場所	時間
10	13	⑭	一関市医師会	13:00～15:00
10	20	⑮	一関市医師会	13:00～15:00
10	27	⑯	一関市医師会	13:00～15:00

☎岩手県一関地域産業保健センター(一関市医師会内) ☎ 23-5110

募集 日越教育交流事業のホストファミリーを募集します

藤沢町国際交流協会

「第16回日越教育交流事業」は10月14日から23日まで行われ、ベトナムホーチミン市から日本語を学ぶ大学生など6人が来町します。これに伴い、ボランティアホストファミリー6家族を募集します。ホームステイの期間は10月15日から7泊です。ホストファミリーを希望する人は、9月22日⑮までに下記まで申し込んでください。

☎藤沢町国際交流協会 ☎ 63-5515

イベント 動物愛護週間に合わせて一関市で各種行事を開催

一関保健所

9月20日⑯から26日⑰は動物愛護週間です。岩手県一関保健所は岩手県獣医師会一関支部と共催で「犬、ねこの慰霊祭」と「動物愛護フェスティバル」を開催します。参加は無料です。

<犬、ねこの慰霊祭>

●日時 9月21日⑰14:00～15:00

●場所 一関市釣山公園愛犬の碑前

<動物愛護フェスティバル>

●日時 9月23日⑮14:00～15:30

●場所 イオンスーパーセンター一関

店園芸コーナー
☎一関保健所 ☎ 26-1415

施設 合併で文化交流センターの名称と休館日が変更

町文化交流センター

合併で「藤沢町文化交流センター」の名称は廃止されます。藤沢町文化会館と藤沢町公民館、藤沢町図書館の名称、利用時間と休館日は下記のとおりです。使用料など詳しくは下記まで。

☎藤沢町文化交流センター ☎ 63-5515

区分	合併前	合併後
名称	藤沢町文化会館 藤沢町公民館 藤沢町図書館	藤沢文化センター 藤沢公民館 藤沢図書館
休館日	日曜日・月曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日と年末年始(12/28～1/4)	年末年始(12/29～1/3)だけ 図書館は合併前に同じ
利用時間	9:00～22:00 図書館は9:30～17:30	合併前に同じ



寄付 まごころを寄せてくださりありがとうございました

●千葉義治さん 黄海字深田和
特別養護老人ホーム「光栄荘」の設備充実に役立ててとスイングアーム介助バー3台(10万円相当)が寄付されました

●千葉和夫さん 黄海字白石
デイサービスセンターの設備充実に役立ててとシャワーチェア5台(5万円相当)が寄付されました

●千田俊一さん 徳田字宇道
藤沢町民病院の設備充実に役立ててと金20万円が寄付されました

●及川雅行さん 保呂羽字宇道沢
藤沢町民病院の設備充実に役立ててと金10万円が寄付されました

●星義弘さん 徳田字平田
藤沢町のまちづくり推進に役立ててと金30万円が寄付されました

戸籍の窓

こんにちは赤ちゃん

菊地 奏良 きくち・そら
*勇武 *寛子 徳田字野岡

皆川 真緒 みなかわ・まお
*学 *昌枝 新沼字岩倉

小野寺未唯 おのでら・みい
*正美 *美樹 藤沢字町裏

及川 咲愛 おいかわ・さら
*晋 *愛美 黄海字上場

小野寺奏良 おのでら・そら
*秀和 *優子 西口字切付

皆川 利佳 みなかわ・りか
*真一 *ロザリダ 西口字木ノ中

松橋 琉風 まつはし・りお
*孝幸 *しのぶ 黄海字本沢

伊藤 鉄平 いう・てつべい
*裕 *祐子 増沢字下田

お悔やみ申し上げます

千葉 弘一 88 徳田字荒谷
三浦 キクコ 90 黄海字古堂
星 健一 83 徳田字平田
千田 昂八 87 徳田字宇道
菊地 ムコ子 81 徳田字桜ノ沢
須藤 きくよ 58 徳田字馬場
千葉 生士 72 西口字六十里
佐藤 トシエ 84 大籠字曾根

*敬称略。届け出時に総合情報誌への掲載を希望した人だけ載せています。

まちの人口

地区	人口	世帯数
藤 沢	2,933 (4)	1,016 (4)
黄 海	2,435 (5)	726 (0)
八 沢	2,407 (-3)	789 (0)
保呂羽・大籠	1,348 (-1)	419 (0)
計	9,123 (5)	2,950 (4)

2011年9月1日現在。()内は前月比

休日の当番医(東地区)

月 日	医療機関	電話
9 18	室根診療所	64-2127
19	阿部医院	47-3898
9 23	遠藤医院	53-2126
25	菊池内科医院	74-2512
10 2	もりあい内科クリニック	51-3322
9	本多医院	72-2133
10	菅野内科医院	75-2772

*当番医を確認してからお出掛けください。一関消防本部 ☎ 25-0119 または一関市役所 ☎ 21-2111



5



2



3



Wakabayashi Takashi

早稲田大学グリークラブ第104代部長
若林貴士さん 基幹理工学部4年

被災地でのコンサートは今回が初めて。藤沢では会場と一体になって楽しめた。クラブには被災した仲間もいる。これからはチャリティコンサートや募金活動で支援していきたい。

早稲田大学グリークラブ第105代部長
大澤修平さん 教育学部3年



Osawa Shuhei

被災地で歌いたい、でも邪魔はしたくない。そんな葛藤の中、沼倉先輩が声をかけてくれた。喜んで引き受けた。ステージから客席で涙する姿が見えた。うれしかった。



Uchimura Shunsuke

父親が普代村、母親が軽米町出身の
内村駿介さん 文学部4年

三陸の景色が変わり果て、悲しかった。いつも心は岩手にある。おいしい海産物や美しい風景は私の誇り。復興のためにできることをしたい。今日は特別な思いを込めて歌った。

町と早大を橋渡しした早大OBの
沼倉憲二副町長



Numakura Kenji

今回のコンサートは「町から早大へ」「早大から町へ」という二つの感謝の気持ちが一つになって実現した。復興への祈りを込めて歌った学生たちの力強い歌声に心から感動した。

沼倉副町長は「長年お世話になった庁舎への感謝の気持ちもあり、役場庁舎前での合唱を願っていた」と感動していた。

同日は、コンサートに先立ち、閉町を控えた町役場でも合唱が行われた。WAVOCの活動を支援する町に対し、感謝を込めて贈られたもので、町職員らが感慨深げに聞き入った。

早大総長室渉外局の本間知佐子渉外担当課長とWAVOCの橋谷田雅志コーディネーターは「このような機会をいただき、私たちの方こそ感謝している。これからも、藤沢町とは末永いお付き合いをしたいと思います」と話している。

「緊張と興奮で疲れたが充実感でいっぱいだった。沼倉先輩との縁で藤沢で歌うことができた」と感謝した。父親が普代村、母親が軽米町出身の内村駿介さん(文学部4年)は「自宅は埼玉県だが、久慈市で生まれた。岩手は第2の古里だ。津波被害を受けた普代の漁港を見て言葉が出

なかつた。一日も早い復興を祈っている」と語った。

今回のコンサートは、気仙沼市などで被災地支援活動を行っている早大平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)の学生と教職員が旧大籠小を宿泊拠点にして、OBの沼倉憲二副町長が橋渡しして実現した。早大総長室渉外局の本間知佐子渉外担当課長とWAVOCの橋谷田雅志コーディネーターは「このような機会をいただき、私たちの方こそ感謝している。これからも、藤沢町とは末永いお付き合いをしたいと思います」と話している。

1)見事な歌声で客席を魅了した早稲田大学グリークラブ。コンサート「明日への力」は38人編成。校歌や愛唱歌など全12曲を熱唱した/2)名門サークルの歌声を聞こうと、会場には町内外から大勢の人が詰めかけた/3)力強い歌声と一流のハーモニイに女性客は大満足/4)コンサート終了後、町民から花束が贈られた/5)お客さんの見送りも歌で。終演後、ロビーで再び合唱する学生たち/6)沼倉憲二副町長ら関係者とグリークラブの学生



1

心に届け 復興の応援歌

(第3特集 東日本大震災から6カ月)

本町を拠点に東日本大震災の被災地支援活動が続いている早稲田大学のグリークラブは9月5日、縄文ホールで「復興支援コンサート」を開いた。力強い歌声は、多くの人に元気を与えた。

復興への祈り込め、 縄文ホールでコンサート

早稲田大学グリークラブ
WASEDA UNIV.Glee Club



沿岸被災地の支援活動を行う平山郁夫記念ボランティアセンターから藤沢町へ9月4日、感謝状が贈られた。感謝状は、宿泊拠点の提供をはじめ町が同センターの活動に対する提供を始めたことに対するもの。同日は同センターの外川隆事務長から「ボランティア活動を通して学んだことは、教育的にも、社会的にも大きい」と島山博町長へ感謝状が手渡された。

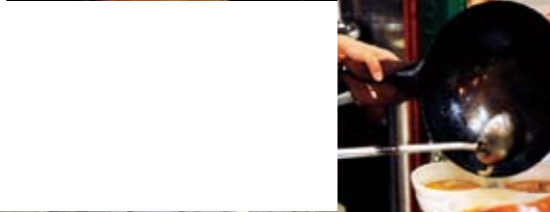


6

早稲田大学
グリークラブ

1907年設立。歴史あるクラブの前身は「早稲田大学音楽会声楽部」。団体として初めて早大校歌「都の西北」を歌った由緒ある合唱団で、東京六大学合唱連盟(男声六連)や慶應義塾大学・同志社大学・関西学院大学との「東西四連」にも加盟している。国内外での演奏旅行、プロの演奏会やテレビ出演など幅広い活動を展開する名門サークル。OBにはボニージャックスや筑紫哲也などが名を連ねる。現在の部員は約130人。





1) こだわりのコーヒーを入れる。動植物などの絵が浮かぶデザインカップチーノは大人気／2) アジアンテイストをベースにした料理はユニーク。一品一品手間を掛けて作られる。しかもリーズナブルでうまい／3) ここで出会う全ての人が財産。人と人との絆を考えるようになったのは、藤沢の人たちとの交流／4) 店内には本、雑貨、CDなどが並べられている。食の安全はもとより暮らしの安全にも力を入れている／5) 伊里前保育所で炊き出しボランティアをした時の新聞記事／6) /安全へのこだわりは人一倍だ。写真は店内に設置した「食の安全募金」／7) 大津波に流され、基礎しか残っていない自宅。震災は家だけでなく平穏な暮らしや大切な思い出など丸ごとのみこんだ

仕 事中、突然、激しい揺れに襲われた。自分は店にいた。妻は南三陸町志津川で用事を済ませ、歌津の保育園に通う長女を迎えに行こうとした矢先だった。慌てて店に引き返してきた。
妻の無事を確認したのもつかの間、大きな不安に襲われた。津波である。長女が通う歌津の伊里前保育所は海に近い。すぐに携帯電話で母親に連絡した。保育士が園児を高台に避難させてくれたという。無事だった。胸をなでおろした。翌日、歌津に行った。自宅は跡形もなく流されていた。言葉も失った。家は陸前港駅の奥で海岸から700ほど離れている。国道45号やJRの駅舎などがあるので、自宅までは到達しないだろうと思っていた。母親によると、「津波は駅のはるか上を越えてきた。高さ30ほどはあった」という。
自宅を失い、店で暮らした。41日間休業した。福島第一原発の事故による放射性物質の影響を恐れ、娘と身重の妻は店から外に出さなかつた。停電や断水には動じなかつた。もともとアウトドア派で、LEDランタン、ろうそく、ラジオ、寝袋などを備えていたからだ。災害時に必要なものは家、店、車などに分散している。飲料水の作り方など、海外を旅した時に学んだ「生きるための知恵や知識」も大きい。デジタル化やハイテク化が進む現

「和sian cafe aimaki」を経営する高橋大吾さん。
3・11の大津波で南三陸町歌津の自宅は流された。大籠字切通の店のそばに自宅を構え、藤沢から復興を目指す。

代社会は災害に弱い。灯油のファンヒーターさえも停電時には使えない。役に立つのは、反射式やまきなどアナログなものだ。
店を再開してからは、従来以上に食材に気を配った。「安全なものしか出さない」がポリシー。牛乳や野菜などは、セシウムに汚染されていないものを自ら調べて調達した。行政に求めることは、避難所や仮設住宅で生活する人たちの「コミュニティの維持」と「心のケア」。震災のショックとなじめないコミュニティが原因で心の病になる人が多い。大変な時だからこそ、人と人のつながりは重要だ。国には、正確な情報を一刻も早く報じてほしい。地震も、津波も、原発事故も、もともと早く情報を得ていたら、ここまで深刻にはならなかつたと思う。
自分は店が残つたから前に進むという気になれた。でも、家や家族を失った人は、何を支えに生きていけばいいのか途方に暮れている。そんな時、親身に話を聞いて

くれたり、そばにいてくれたりする人がいれば心強い。どんなに社会がデジタル化されても、人と人とのつながりはアナログ。人を支えられるのは、人でしかないのだから。
僕 がこんな人にのつながりを作るようになったのは、藤沢に店を出してからだ。ここに来たばかりの頃、気遣ってくれたり、助けてくれたりしたのは近所の皆さんだった。地域の人たちはもちろん、お客さん、業者さん、仲間など、藤沢で出会った人たちによって自分の意識は変わっていった。
震災後、店のそばに家を建てた。復興活動でも材料も不足している中、近所の大工さんがいち早く手配してくれた。本当に感謝している。自宅で風呂に入れるようになった時は感無量だった。
今はまだ、全てを流された古里を見るのがつらい。でも、歩みを止めるわけにはいかない。僕はここ(藤沢)から復興を目指す。一歩ずつ、前に進んでいきたい。



復興に向け
一番大切なものは
人と人との
絆やつながら

高橋大吾さん 和sian cafe aimaki



和sian cafe aimaki
大籠字切通の国道346号沿いに05年6月オープンした「和sian cafe aimaki」。ログハウスのカフェレストランは、アジア各国の料理とこだわりのコーヒーが自慢。その味と雰囲気、盛りだくさんなメニューと遠方から通う熱烈なファンも多い。店内にはアジア雑貨、小物、絵本やCDなどが所狭しと並べられている。食事はもちろんBGMを聴きながら本を読んだり、雑談を見たり、そんなんびり過ごせる空間が人気を呼んでいる。
藤沢町大籠字切通9-2
☎0191-62-2340

高橋大吾
1974年宮城県南三陸町生まれ。志津川高卒業後、宮城調理師専門学校で学ぶ。94年仙台ロイヤルパークホテルに就職。中華部門で4年間厨房に立つ。98年に退社し、世界各国を旅しながらスキルアップ。05年6月「和sian cafe aimaki」オープン。家族は妻、長女、両親の5人。37歳



1_藤沢町最後の夏の成人式で「誓いの言葉」を述べる千葉暁登さん(黄海)と菊地彩さん(増沢) / 2_久しぶりの再会を喜び、記念撮影する新成人 / 3,4_今年は新成人130人のうち82人が式に出席。千葉尚季さんの朗読に続き、全員で町民憲章を唱和した / 5_式辞を述べた畠山博町長 / 6_祝辞を寄せた須藤節男町議会議長



3



5



4

「みんなで祝う」が藤沢流 手づくりコンサートで門出を祝う

式典後は、町内の太鼓団体、ロックバンドやマーチングバンドが出演して「はたちのお祝いコンサート」が開かれ、町民みんなで二十歳の門出を祝った。

トップは、地元のロックバンド「Tick-Away」(ティック・アウェイ)。XJAPANのナンバーを熱唱し、迫力満点のステージに客席から大きな拍手が送られた。

続いて登場したのは藤沢小児童で編成する「FMB32マーチングバンド」。軽快なリズムに乗って2曲を演奏したほか、AKB48のナンバーを踊って会場を沸かせた。

トリを飾ったのは「二日町祭神太鼓」。息の合った見事な演奏で、勇壮な音を会場に響かせた。

フィナーレは、出演者全員が再登場し、客席の新成人と一緒に「ふるさと」を合唱。会場は一つになった。

成人式実行委員長の千葉暁登さんは「東日本大震災で多くの方が犠牲になった。自分たちが今、こうして生きていられることに、多くの皆さんに祝っていただいたことに、あらためて感謝したい。岩手の、東北の一日も早い復興に向け、自分たちにできることから協力したい。一緒に頑張りたいと思っている」と話していた。



7



8

7_式終了後は、今年も町民手作りのコンサートで二十歳の門出を祝った。フィナーレは出演者全員が客席の新成人と一緒に「ふるさと」を合唱 / 8_二日町祭神太鼓は勇壮な和太鼓を会場に響かせた / 9_藤沢小児童で構成するFMB32マーチングバンドは軽快なリズムに乗って見事な演奏・演技を披露 / 10_地元のロックバンドTick-AwayはXJAPANのナンバーを熱唱した



10



9



1

Coming of Age Ceremony

第4特集
古里の夏にきらめく新成人

藤沢町最後の夏の成人式 新成人130人が大人の仲間入り

藤沢町として最後になる「夏の成人式」は8月15日、町文化交流センター「縄文ホール」で開かれ、出席した新成人82人(男44人、女38人)が決意新たに大人への第一歩を踏み出した。

午前10時から行われた式には、スーツやドレスで着飾った新成人が晴れやかな表情で出席。町民憲章の唱和に続き、畠山博町長が「若い人たちの発想で、付加価値をつくるのが地域や日本の発展に欠かせない。新しい発想で古里のために頑張ってもらいたい」と式辞。一関市との

合併、東日本大震災、情報通信基盤整備(ICT)事業などにも触れながら、新成人にエールを送った。来賓の須藤節男町議会議長、飯澤匡、千葉康一郎両県議会議員が祝辞を寄せた。

新成人を代表して千葉暁登さん＝黄海字熊館＝と菊地彩さん＝増沢字日当＝の二人が「課題の多いこの時期に、大人の仲間入りすることに大きな意義と責任を感じる。今日を出発点に社会の一員として責務を果たしたい」と誓いの言葉を述べた。



2



Chiba Akito

町最後の夏、
多くの仲間と古里で
成人を迎えられたことは
一生の思い出

実行委員長を任せられ、式の企画から運営まで携わりました。今日は、決意新たに成人式に出席し、大人の仲間入りをすることができました。

千葉暁登さん

ちば・あきと 黄海字熊館 会社員
藤沢町成人式実行委員会委員長

でも、「一人でも多くの同級生に参加してほしい」と、手紙を出したり、電話をかけたりました。だから、82人の出席はうれしかったですね。今は、無事

に終えて、ほっとしています。みんなと一緒に古里で成人を迎えられたこと、藤沢町最後の成人式に携わったことは、私の一生の思い出です。
藤沢町の魅力は、豊かな自然と温かい人たちです。自宅は館ヶ森エリアの近く。サファリパークがオープンしてからずいぶん交通量が増えました。同様に、二関市との合併によって、お店などが増えれば、もっと多くの人が藤沢を訪れるかもしれません。町がにぎやかになることを期待しています。
地元では、近所付き合いを大切にしています。ナイトラッ

フトボール大会にはできるだけ参加して、地域の人たちと触れ合っています。自治会活動には父が参加していますが、「いずれは自分も」と思っています。成人を機に、これから少しずつ任せられると思います。合併後も、地域の絆や人と人とのつながりは、変わってほしくないですね。
仕事は会社員。一関市内の製造業に勤めています。まずは仕事を頑張ります。そして、夢や目標を持って、一日一日を大切に過ごします。何事にも積極的にチャレンジしながら、人生を楽しみたいです。



式に先立ち行われた「はたちの選挙」は成人者の意識調査を兼ねた模擬投票。新成人たちは、記載台で投票用紙(調査票)に回答し、投票箱に入れた。今年は式に出席した82人のうち70人が投票、投票率は前年を5.7ポイント上回る85.4%だった。

新成人の意識調査に見た古里愛 藤沢の価値や魅力を継続できる合併を

成人式に先立ち行われた「はたちの選挙」は、模擬投票形式で成人者の意識を調査する。今年の投票率は85・4%。新成人は古里愛も、まちづくりへの意欲も十分だ。

町選挙管理委員会、町明るい選挙推進協議会、町白バラ会主催の「はたちの選挙」は成人式に先立ち縄文ホールロビーで行われた。

同選挙は、成人者の意識調査を兼ねた模擬投票。式に出席した82人のうち70人が投票、投票率は前年を5・7ポイント上回る85・4%だった。

回答者の内訳は就職者27人、学生40人、その他3人。居住地は町内21人、県内11人、県外38人。

「選挙への関心」を尋ねた質問は「関心がある」が64・3%

▼「ない」が12・9%▼「分かる」が21・4%だった。「まちづくりで特に印象深いもの」(2項目選択)は▼「野焼祭・藤沢焼」が40・5%▼「キッチン・史跡・殉教公園」と「ニコパーク」が15・8%▼「福祉・医療」と「館ヶ森エリア」が12・8%だった。

現在の職場や学校に対する満足度を訪ねた質問については▼「満足」が48・6%▼「不満」が12・9%という回答だった。

どんな職場で働くことを望んでいるかを聞いた質問は▼

「自分の才能を生かせる」が35・7%▼「収入が多い」と「安定性がある」が20・0%▼「人のためになる」が14・3%だった。

最近最も気になっている出来事(自由回答)は▼東日本大震災▼原発事故▼などしこじやパン▼菅首相の退陣問題――を挙げる声が多かった。

これまでの藤沢町のまちづくりについては「町民一人一人の意識が高い」「他にはない独自性がある」「自治会活動が活発」など、評価する意見が多かった。

新一関市への要望は「野焼祭など藤沢が誇れる行事を続けてほしい」「町民病院をなくさないでほしい」などが出された。

この夏、大人の仲間入りをした新成人たち。彼らの地域や社会への関心は高い。古里の未来を自ら担っていくという決意も感じられる。新しいまちづくりは、こうした若い人たちの思いやアイデアをどれだけ反映させられるかが重要だ。言い換えれば、それは「若者が定住するまち」につながっていくことでもある。

Sato Honami

佐藤穂奈美さん 青森県弘前市 藤沢字狩野出身



大学で法学を学んでいます。まだまだ知識不足なので、もっと深く勉強したいです。これからは積極的に選挙に行くなど、二十歳を機に成人としての自覚と責任を行動で表したいです。被災地の大変な状況を認識しています。一刻も早い復興には、若い世代の力が必要です。自分にできる支援活動を始めたいです。

Sato Takanori

佐藤貴紀さん 保呂羽字宇和田



久しぶりに同級生と再会でできてうれしかったです。懐かしかったし、みんな大人になっていてとても驚きました。今は、自動車関係の仕事に関心があります。自分の夢に向かって頑張っている同級生たちに会って、いい刺激を受けました。将来は、一生懸命働いて自分の家を持ちたいです。

Sato Misa

佐藤美沙さん 徳田字名生城



地元の製造業に勤めています。中学校の後輩たちにバスケットボールを教えています。合併後も、藤沢の個性を大事にしてほしいです。成人を迎え、これまで以上に責任と自覚が必要だと感じています。目の前の道をしっかりと歩んでいきたいです。両親にはとても感謝しています。これからは親孝行したいです。



貫いた「打」の黄海、手に入れた東北切符

町立最後の夏

銀

黄海スーパーキッズ

「第40回岩手県スポーツ少年団ソフトボール大会」は8月27、28の両日、一関市東山町の唐梅館総合公園で開かれ、黄海スーパーキッズが堂々準優勝し、東北大会出場を決めた。5月の県小学生大会地区予選敗退から112日。東北切符を手に入れるまでの町立最後の夏を追った。



1回戦 黄海7-3新沼 集中打で逆転 町勢対決を制す

黄海は初戦、新沼スポーツ少年団と対戦。レベルの高い藤沢町。県大会での町勢対決は珍しいことではない。

先制したのは新沼。2回表、失策や安打で満塁となると、9番時田翠の右ゴロの間に2点、1番三浦優香の内野ゴロの間に1点、3-0とリードする。

その裏黄海は、5番千葉遥菜が左前打で出塁、これを新沼が送球ミスし、遥菜は一気に生還、1点を返す。3回には伊藤有希、須藤亜身乃の1、2番

4-0とリードする。

黄海は3回表、反撃に出る。一死から中前打で出た亜身乃が内野ゴロの間に二進。4番望実の適時打で1点を返す。続く岩瀬葵の打球は藤沢のミスを誘い、望実も帰って2-4とした。ところが4回裏、藤沢は9番佐藤野乃花が本塁打を打ち、3点差に。黄海は5回表、望実の中越え二塁打で1点を返し、再び2点差に追い上げる。

試合は5-3と藤沢リードのまま最終回へ。ドラマは二死から始まった。亜身乃が中前打で最後の望みをつなぐと、遥菜の内野ゴロを藤沢が失策、二死一、二塁とする。続く打者は主砲望実。カウント2-0からフルスイングした打球は左翼の岡上を越える二塁打。亜身乃と遥菜が快足を飛ばして帰り、ついに追いついた。望実はずかさず三盗。次打者葵への4球目が暴投となり、決勝の本塁を踏んだ。歓喜に沸く黄海、呆然とする藤沢。町勢対決は劇的な幕切れとなった。

黄海 0020103-6

藤沢 3101000-5

(黄) 岩瀬-伊東望

(藤) 菊地-皆川

▼本 佐藤野(藤)

▼三 小野寺精(藤)、伊東望(黄)



第40回岩手県スポーツ少年団ソフトボール大会

主催 岩手県スポーツ少年団・(財)岩手県体育協会・岩手県ソフトボール協会

後援 岩手県教育委員会・一関市・一関市教育委員会

期日 平成23年8月27日～28日 場所 東山多目的グラウンド

岩手県スポーツ少年団ソフトボール大会で準優勝し、東北大会出場を決めた黄海スーパーキッズライン
後列 須藤悦監督、伊藤昭弘コーチ、伊東哲也コーチ/中列 小野寺未来、岩瀬葵、佐々木優香、伊藤有希、千葉遥菜、須藤亜身乃、伊東望
前列 高山早菜、須藤瑞希、千葉一華、渡辺朝陽、伊東多香子、千葉智世、伊東菜々子

コンビが安打と四球でチャンスをつくると、4番伊東望実、5番遥菜が連続安打で2人を帰し、ついに追いついた。さらに4回、9番小野寺未来、1番有希、3番佐々木優香の安打で一死満塁となると、主砲望実が左中間を深くと破る走者一掃の三塁打を打ち、3点、続く遥菜の安打で望実も帰り、新沼を突き放した。

試合は5回表新沼の攻撃終了時点で時間切れ。黄海は7-3で町勢対決を制した。

新沼 03000-3

黄海 0124-7

(新) 伊藤詩-菊地香

(黄) 岩瀬-伊東望

▼三 伊東望(黄)

2回戦 黄海6-5藤沢 執念の逆転劇 藤沢破り4強入り

2回戦の相手は、関小ヤングスポーツ少年団(一関市)に8-0で完封勝ちした藤沢レッドファイターズ。初戦に続き、町勢対決となった。

先制したのは藤沢。初回、1番小野寺精菜が左越え三塁打でチャンスをつくると失策や安打で3点を挙げた。藤沢は2回にも、精菜が四球で出塁。二盗後、失策で生還し、序盤で

準決勝 黄海11-0小梨
序盤に大量点
葵があわや完全試合

準決勝は小梨ブルーウィングス(二関市)と激突した。この試合に勝てば「東北」が見える。大一番が始まった。

後攻の黄海は初回、有希と遥菜が安打でチャンスをつくると、暴投や捕逸で3点を先制、さい先良いスタートを切る。

2回は、未来の四球を足掛かりに有希、亜身乃、遥菜、望実、優香の5連打でまず4点。DP早菜が安打で続き、2順目に入った未来が走者一掃の左中間二塁打を放って10-0。さらに、有希の中前打で未来も帰り、この回打者



12人の猛攻で大量8点を奪った。守ってはエース葵が緩急自在の投球で小梨打線相手にあわや完全試合の快投。無安打無得点を達成した。小梨を破り決勝に進んだ黄海は、東北大会出場をほぼ手中にした。

小梨 000000-0
黄海 38000×-11
(小)村上沙、千田一尾形菜
(黄)岩淵一伊東望
▼二塁打 小野寺(黄)

決勝 黄海1-3東和
息詰まる投手戦
東和に敗れ県準V

いよいよ決勝だ。相手は、反対プロックを横綱相撲で勝ち上がったV候補の東和クリエーターズ(花巻市)。岩手の女王を決める頂上決戦は、黄海の先攻で始まった。

初回黄海は東和の好投手佐藤愛佳の立ち上がりを攻める。先頭有希が安打で出ると亜身乃が四球、遥菜が安打で続き、無死満塁のビッグチャンスをつくる。しかし、後続を内野フライなどに打ち取られ、無得点に終わった。

2回は7番瑞希が振り逃げで出塁すると未来が安打で一死一三塁。続く1番有希の三塁ゴロの間に、瑞希が本塁を踏み、待望の先取点を挙げた。

取り戻したフライド
震災、主将欠場
どん底からの逆転劇

黄海は昨秋、県新人大会で3位に入った。そのスタイルは打ち勝つソフト。「高学年が少ない中で、他と同じやり方じゃ勝ち目はない。だから、攻撃に活路を見いだした」。須藤監督は振り返る。

冬場も打撃中心のメニューでトレーニングを積んだ。選手は一回りパワーアップして春を迎えた。目標は全国大会出場。順調な仕上がりがだった。

しかし、3月11日14時46分、大

きな揺れと共にあの東日本大震災は起きた。

「とてもソフトボールを続けられる状況じゃなかった。当面、練習を休むことにした」

震災から1カ月。町は少しずつ落ち着きを取り戻した。ようやく練習を再開する。

急ピッチで1カ月のプランクを埋めようとした矢先、主将で捕手の遥菜が練習試合で骨折。守りの要、さらに精神的支柱の主将を欠いたチームはどん底に落ちた。

こうして迎えた県南地区予選。黄海は奥玉に4-7、室根西に3-15で連敗。田河津には5-4

その裏東和は、6番高橋みなみが四球を選ぶと、失策や暴投など無安打で2点を挙げ、試合をひっくり返した。4回には、右前打で出た赤坂瑠架を得点圏に置いて、1番石川愛彩が適時打で返し、3-1とした。

黄海は4回以降、東和佐藤の速球に三者凡退を繰り返し、好投する葵に報いることができなかった。

黄海 01000000-1
東和 0201000×-3
(黄)岩淵一伊東望
(東)佐藤愛一菊池英



でかろうじて勝ったが、地区予選を突破することができず、全国大会出場の夢は、早くも消えた。「遥菜がいなきや勝てないのか。みんなのチームじゃないのか」監督の言葉に選手は目覚めた。「みんなで遥菜を県大会へ連れて行く」

この日を境に、チームの雰囲気は一変した。敗戦は起爆剤となって選手の魂に火を付けた。

6月、チームに遥菜が戻ってきた。遥菜は捕手を望実に任せ、内野の要である遊撃手にコンバートした。主将をけがで欠き、どん底に落ちたチームは、敗戦をバネにたくましくなった。以前にも増して絆を深め、リスタートした。

練習試合で奥玉、花巻西南、川崎、藤沢などの強豪と互角に戦えるようになった。監督は手応えを感じた。選手は自信を取り戻した。チームのムードは日増しに高まった。

こうして迎えた県スポーツ少年団大会県南予選。黄海は関小を17-1で退けると室根西を10-5で破り、摺沢には9-3で勝った。県大会も打ち勝つソフトで強豪を次々と撃破、頂上決戦まで勝ち進んだ。決勝は東和に惜敗し、06年以来的優勝こそ逃したが、その戦いぶりはソフトボール王国藤沢を象徴するものだった。

5月の予選敗退が良薬
全員でリスタート、
そして、夏の主役へ



1) 準決勝小梨戦の2回、走者一掃の二塁打を放つ小野寺未来 / 2) 東北大会出場に貢献したエース岩淵葵。準決勝小梨戦では、緩急自在の投球で無安打無得点の快投を見せた / 3) 選手の活躍に盛んな声援を送る父母ら抜きに東北大会出場は語れない / 4) 決勝東和戦の最終回、ベンチ前で円陣を組み、反撃を誓う選手たち



5) 大事な場面で長打を連発した頼れる主砲伊東望実(打率.462をマーク) / 6) 決勝東和戦2回、内野ゴロの間に同点とされる / 7) 1番伊藤有希は走攻守三拍子そろった注目の選手。打率.500をマーク / 8) 機動力も持ち味の一つ。足を使った攻撃でチャンスメーカーする須藤亜身乃はいぶし銀の活躍 / 9) シュアな打撃で勝利に貢献した佐々木優香は強力クリーンアップの一人 / 10) 決勝東和戦2回、先制のホームを踏む須藤瑞希



SUTO ETSU

黄海スパークッズ 須藤悦監督

小学生大会は5月の県南地区予選で敗れた。それだけに、今回の東北大会出場はうれしい。限られた期間だが課題を克服すべく練習を重ね、東北大会に臨みたい。岩手代表として精一杯プレーしたい。

CHIBA HARUNA

黄海スパークッズ 千葉遥菜主将

小学校生活最後の大会だったので、絶対に勝ちたかった。チーム全員が最後まであきらめない気持ちで一息懸命プレーしたことが東北大会出場につながった。秋田でも一つ一つ勝ち進みたい。



藤沢の魅力、価値、エネルギーを再確認するために
BACK NUMBER バックナンバー
 のご案内

まちの総合情報誌ふじさわのバックナンバーを希望する人は、藤沢町役場自治振興課までお問い合わせください。過去1年分は品切れになりました。それ以前のはお問い合わせください。



2011年7月 No.691 **全身全霊で夢つなぐ**
 町立最後の夏に岩手を制し、東北大会に進んだ藤中ソフトボール部の夏

2011年7月 No.690 **RESTART**
 復興は被災地と支援する自治体とが共同で取り組むプロジェクトだ

2011年6月 No.689 **歩き出そう**
 東日本大震災から3カ月。復興に向けた町民の支援活動をレポート



2011年5月 No.688 **希望のケルン**
 合併前にまちづくりの原動力「藤沢の自治会」について考える

2011年4月 No.687 **復興**
 町内の被災地支援活動をレポートしながら、復興について考える

2011年3月 No.686 **「想定外」を乗り越えるために**
 東北・関東地方に大きな被害をもたらした東日本大震災をレポート



2011年2月 No.685 **畠山町政「第2章」**
 畠山博町長の2期目がスタートした。その思いと重点施策を聞いた

2011年1月 No.684 **藤沢未来予想図**
 合併に向け、古里の価値や魅力を資源に未来を開くまちづくりを考える

2010年12月 No.683 **連立性権**
 男女共同参画社会は、どうすれば実現できるのか？



2010年11月 No.682 **ANDANTE**
 理想郷を求め、新しい時代へ進む。マーチング活動に協働の原点を見た

2010年10月 No.681 **ピーマン**
 ピーマン栽培が盛んな藤沢町の産地確立に向けた取り組みを追う

2010年9月 No.680 **土と炎の祭典**
 35回目の藤沢野焼祭をレポート。琴線を刺激する祭りとは何かを追う

問い合わせ・申し込み
 藤沢町役場自治振興課へお越しいただくか、電話、はがき、ファクス、電子メールのいずれかで申し込んでください。着払いで発送します。送料はご負担ください。
 〒029-3405 岩手県東磐井郡藤沢町藤沢字町裏187 藤沢町自治振興課
 ☎0191-63-4121 Fax 0191-63-5022 ✉kou-h@town.fujisawa.iwate.jp

まちの文芸

新沼小学校

中作品	俳句
きもだめし	ともだちいれば こわくない 1年 川崎 隼
ひまわりは	たかってみえない うえをむく 1年 三浦 碧珠
なつやすみ	かとりせんこう へっていく 1年 星 光輝
せんぶうき	いつも回って つかれそう 2年 近江 稜太
子ども会	すいかをたべて たねとばし 2年 三浦 実子
夏休み	どこかへいこう おかあさん 2年 千葉 咲
せみたちは	ミンミンミンミン 大がっしょう 3年 三浦 航聖
プールでは	かえる先生 おやく立ち 3年 及川 玲奈
かき水	カリカリしてて おいしいな 3年 菊池 星花
さくらんぼ	二つならんで ラブラブだ 4年 伊藤 歩
かき水	色とりどりの 朝顔だ 4年 小野寺結菜
ひまわりが	お空の雲に こんにちは 5年 千田日奈子
あまがえる	あみ戸にはりつく 夏の夜 6年 及川 侑
ひまわりが	ひざしのシャワー あびている 5年 伊藤 詩穂
森のセミ	夏限定の 合唱団 6年 伊藤 翔矢
セミ騒ぐ	これから夏が スタートだ 6年 伊藤 誓
せみの声	ひびく青空 どこまでも 6年 菅原 陸

Focus

Person of the month
 話題の人 注目人

村上いろはさん

ECCジュニア藤沢町教室
 一関一高付属中1年 藤沢字早道



ECCジュニア主催の 中学生英語暗唱大会で優秀賞

盛岡市の「プラザおでつて」で8月28日に開かれた「第9回ECCジュニア中学生英語暗唱大会」(ECCジュニア主催)で優秀賞を受賞した。「入賞すると思わなかったから驚いた。会場で成績発表された時、自分のエントリー番号を覚えていなくて(笑)。友達(一関・地主町教室)の歓声で自分だと分かった」とはにかむ。大会には県内の各教室に通う43人がエントリー。学年別に設定された3種類の課題文から1つを選び、暗唱した。いろはさんが選んだテーマは古典落語の「うなぎのかばやき

のかおり」。うなぎ屋の前で蒲焼きの香りだけでご飯を食べるお金のない客と、お金を払わせようとする主人との軽妙なやりとりを流ちょうな英語で見事に表現した。審査は▼発音▼イントネーション▼暗唱度▼流ちょうさ▼印象の5項目で行われた。いろはさんはいずれの項目も高得点を獲得、1年生ながら2位に当たる優秀賞に選ばれた。ECC藤沢町教室に通い始めたのは小5から。同教室の管家佳子先生は「のみ込みが早い上に、人の何倍も勉強したり、練習したりする努

力家。大きな舞台に動じない性格も魅力の一つ」と教え子の入賞を喜ぶ。英語が好きになったのは、町国際交流協会の「英語であそぼ!」に参加してから。父文昭さんは「初めて英語に触れたのは3歳の時。小さい子どもから英語に親しめる藤沢の環境があればこそ」とにっこり。将来は、「人の役に立つ仕事ができる」ときっぱり。困っている人を放っておけないのは祖母貞子さん、父文昭さんの影響だ。「弁護士になりたいです」夢は広がる。



KANKE YOSHIKO



ECCジュニア藤沢町教室 管家佳子さん
 姿勢や表情などにも注意して、堂々と発表するように指導しました。厳しく指導しても、素直に人の話を聞き、いつも向上心を持って英語と向き合っています。小さい子どもたちのあこがれの的です。



1_ECCジュニア中学生英語暗唱大会で、いろはさんが受賞した優秀賞の盾 / 2_町国際交流協会主催の「英語であそぼ!」に参加して、町の英語講師ブレンダン・ギルモアさん、グレンタ・スミスさんと触れ合ういろはさん(2003年)

| わたしの夢 | <最終回> |

ラミレス選手のように
たくさんホームランを打って
みんなに夢を与えたい



DREAMS COME TRUE

夢は見るものじゃなく、叶えるもの

菅原裕次郎さん

すがわら・ゆうじろう
新沼小6年 新沼字芦替田

ぼくは野球が大好きです。新沼スポーツ少年団では、ライトを守り、5番を打っています。夏はあまり良い成績が残せなかったのですが、これから行われる川崎大会などで勝ち進みたいです。授業は算数が好きです。比の問題を考えたり、解いたりするのが得意です。児童会は書記をしています。夢はプロ野球選手です。巨人のラミレス選手のようにたくさんホームランを打って、ホームランの数だけみんなに夢を与えられる選手になりたいです。

編集後記—「感謝。通算692号。56年間ありがとうございました」

合併前の1954年4月15日に第1号を発行してから56年。半世紀以上にわたって、古里の魅力を、価値を発信してきた本誌もついに最終号を迎えました。Fujisawaは皆さんの最も身近な情報誌として、よりよいまちづくりを進めるための情報共有媒体として、町内外の皆さんの皆さんに支えられ、今、その歴史を閉じます。最終号はFJ (Fujisawa Japan) としました。日本という国に藤沢町という世界に誇れる自治体があったことを未来に残したいと思ったからです。543号(99年4月)から担当した自分はこれが150号目。愛する古里で、最終号を担当できたことは生涯の誇りです。皆さん、長い間お世話になりました。本当にありがとうございました。最大級の感謝を込めてページを閉じます。

(岩手県藤沢町自治振興課地域振興係長 島山 浩)